

九二九三



刀
林
四



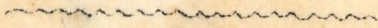




TOORINI

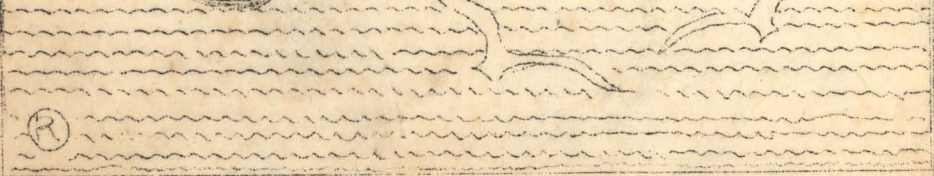
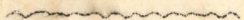
JOJO

1929



Keio

GEKADOSOKAI



®

▲刀林第四號・昭和四年拾二月拾五日▼

表紙 瀨尾審三 扉・カット・漫画 凡生

木版画(西菊舎) 瀨尾審三 昭和二年超四首漫画 太腹居士(九三)

祝賀・歡迎……(九七) 送別……(九四)

軍隊生活の想出 松井八郎 (九五)

十週年紀念に就て 犬養六郎 (九五)

江戸小話 蛭留木老人 (三七)

珍談氣管及内異物二例 太腹居士 (三三)

かんかん踊に就て S・K・生 (一九)

正直不錯覺 土佐犬 (三五)

漫聲乱發 万年女子 (一九)

川柳漫画 かんかん船 (三七)

△『その二』戸田先生受難巻…… A・F・生 (四三)

麻布聯隊だより…… 先輩よりの短信 (五九)

小薄便り…… 関市衛 (一三)



同窓會役員
短歌

△酒に耽るゝ感想として……
△若き日品海に遊んで……

△或田カク致へ……

(頁外)
(五三)

出鱈目日記
蟹の穴

竹生 (八一)
竹生 (二二三)

医局會報 (自昭和四年一月一日至……)

素月生 (二三一)
素月生 (九一九)

△新入局座談會

(一一〇)

△医局内笑話

(二六)

△抄讀會

(二四三)

△御報告

(九二)

同窓會之員名簿

(一四七)

編輯後記

編輯小僧 (二五三)

特別大附錄 (別冊)

▲ 外科 整形外科 入院患者治療綱領 ▼



昭和五年度同窓會役員

昭和四年十一月決定(可成順)

會長

茂木藏之助先生

評議員

犬養 六郎 君

大庭 國紀 君

大曾根 幾次郎 君

上石 英造 君

竹下 貫一 君

梅村 六郎 君

柳 壯一 君

山本 順 君

前田 和三郎 君

木村 博 君



幹事

(會計)

町田	謙二	君
渡辺	治生	君
横山	虎雄	君
玉置	陸次郎	君

祝

講師就任

百理祐邦君



論文通過

佐藤盛三君

賀

全

寺本六郎市君

歡

長野県
大正十四年慶大卒
昭和四年四月入局

林利治君

東京府

昭和四年慶大卒

井上太郎君

右左

東京

加藤銀次郎君

神奈川県
右左

吉岡勝衛君

熊本県
右左

中村廣人君

神奈川県
右左

八木勝郎君

栃木県
右左

小口字一君

迎

了



新

入

局

右 崎玉果
左

右 宮崎果
左

右 東京
左

右 宮崎果
左

右 新潟果
左

右 福島果
左
大正十三年慶大卒

東京市
大正十一年入
昭和四年七月入局

小野田 肇君

弓削 中君

土方久 顯君

百溪定五郎君

瀨尾省三君

佐藤盛二君

比柳常作君



送

上州前橋市

信州依田社病院

房州館山病院

紀州新宮町

関口林五郎君

竹下貫一君

豊田秀穂君

寺本太郎市君

小口字一君

別

麻布三聯隊

海軍軍現役

全

古川明君

加藤銀次郎君

小野田肇君

大正十四年八月某日、近衛野砲兵聯隊習志野原野営出
 発、第二期検閲の爲だ。赤馬が出来ないので數十名の先
 鋒隊を引きつれ、後車行、荷物と一絡にトラウツクで原に
 着く。暑熱やくが如し、とはこの事、猛草は皆萎れて居る
 廠舎の日陰に晝寝、少し涼風が出た頃から井戸の消毒、
 便所の消毒、飲可場の検査、廣々とした別棟を医務室にあ
 て、やつと落ちつく、夕方草原に椅子を持ち出して申す
 申す体志。翌日部隊到着、衛生部員は軍医二、看護長一、看



軍隊生活

想出

松井八郎

薩卒五、診測は午前五時半、瀧留に行くので皆早い。

検閲が始まる。六ヶ中隊あるので三人で二夜づゝおろけ
ルばふらふい、何者々が行かふくたつて大したことは無
いのだが、奇妙に行かふい時はかり事故がある。

杉井軍医殿、騎隊長殿が叩きびです。

何ぞい、行つて見ろ

今夜は検閲だから出て、焚はふくちやふくぬが、どうだ

馬に乗らんか

どうも病が悪いので、その上、馬を収余り乳味のように

のびありません、側に病を副官

下駄代用でよいのだから、乗り給へ。おとなしい馬を貸

してやるよ

いくらおとなしくても乗れません

ではどうする

仕方ありません、夜は歩きます。晝の時は自轉車

を出かけます

第一回、夜十二時出発、仕方がよいから、獣医のあとをホ

クボクボク長靴は、仲々歩き難い。やがて不定の疎地
につく。後方より早の上に乗る。三時半頃から砲撃
開始、直ちに陣地侵入。かう、一隊は山を越して
向ふへ行つて了み、一人取り残され馬鹿々々しいが
敷のあとをたどり、あいな行く向ふにドーンと
と音がする。自軍が射か、波はだあと思つて原をへま
きつて進む。朝雲が腰から下はびしよ濡れた、やつと
到着するともう演習終了、講習もすんで聯隊長以下休
んで居る。
ヤア松井軍医来たか、こんどはまで来なくてああう
で休んで居ればよかつたのだ、大差落水で居るがどう
した。
原をつききつて来たした。砲の煙と見あてに
そろか、大差たつたああ、この水から隊は帰るがまた道を
間違へない様に降りあさい。
原席にしろあ、左も原はあえて、地圖は持つて居るが
見方がわからぬ、あいと来て居る。隊が行つて了つたあと

は鞍で出たより外は無い。本既た確かに達つたらしい。
衆ん心も無い部隊に出で仕まつた。漸く帰る着いたのは
三時間も遅れた。昼間迄くた、軍医殿か迷子になつた。嘆し
た。乃けと當番が騒りてゐる。

第三回、朝ありにく逢申かうどし物降り、自轉車も行
北新かばこ七、驛と泥おけの間に泥がつまつて仕まつ。塵
いで泥を降る始末。やはり三時過ぎばかり遅小哉。

野宮から帰つて後日聯隊命令に因く、
一相当官馬術演習、軍医主任計は毎週水曜日午前七時半ヨ
リ九時迄、聯隊馬場に於て馬術練習を実施スベシ。

一某大尉、相当官馬術教官ヲ命ズ、
この命令どうも俺の爲に出したらしい。疲にさわるが衆
馬隊附となつては仕方がない。やることにする。衆馬も
やつて見ると案外面白いものだ。馬場の杉井軍医殿の心ち
馬がきとあつて仕まつ。

九月軍医学校入校中も一週一組の衆馬演習では足り
ない。上皇日三時過ぎ、衆馬と馬を借り出して

三川方面へ遠征、軍医を以ては別に面白くもな
土曜日が半日ありで大抵で、戦術と所謂軍陳医学も
りを見る。

大正十五年七月隊へ帰つてから大變、こんどは松井軍
医馬好きとあつたから大丈夫と落着、腰圍縮て引張
さ小、習志野々營には行きも帰りも乗馬、中隊の先頭
立つて中隊長と馬を並べて意氣揚々、今は中隊の首率
大隊の後尾が軍医の位置なのだが、埃がひどいとまた
先頭の方が楽なのだ。

その次は富士裾野の野營、あの滝々原のバラツクた、中
殿場口から富士登山した人は知つておやう、あの貧弱な
バラツクた、約一ヶ月間はつく、倦が来る、休日を利用
して小山の富士結核會社工場まで遠征する、河に鯉鱈
絶とある、名刺を出して主に衛生方面の施設を見学した
いとやる、余飯案内をして貰ふ、炊事場、休養室を見て、あと
は工場を初めから順序よく説明して貰ふ、実はこの水が同
的ありだ。

十月三日といふにむろ雪が降り寒いくせに宿台虫が居る

帰營行軍、長尾峠を越して午石平より函根を下り小田原厚木宿岡村を経て歸隊二泊三日の行程、軍医は最後尾を来て吳水と云ふので、牙三入山の後を少しはふ水て獣医と一しよに諸あがら函根越し愉快極り矣し。

十月中旬は秋期演習、約三週間、殆んど毎日衆馬、自分も三大隊附患者をどしどし入班(患者瘵表班と云ふ)に組織せし水て患者を收容して行く)させしものたかた大隊長中氣嫌甚だ斜だ。この大隊長は大急出で睡りかたに床を居るのた成績によりすむにも抜擢せし水標と云ふ進、成績の及を辱へて兵卒の事おど余り辱へふいのか、患者は早く休表させし水は早く治つて却つて総計の病療日数は少なくなり、患者生成績はあが演習だつて病人を無理に連れ水て劣くより、も都合がよいのだと説明して、も解らない。遂に正面衝突だ。

軍医はふび得た、医子の知按に従つて患者を知理して

「だののであつて決してよい加減の事をして居るのでは
ありません。尚入班が多いと言はれませんが、患處痛風は
研除の注意と同様でよくお水は直ぐ喝取して、湯敷が
来ます、現に大部は歸つて来て、湯敷を経て居るので
ありませんか。一件大隊長殿は何の程にお居へにふつて
居る水るのでですか。一應中伺ひしふう所座します」

「まあ、さう云はんも一パイお水
何んだ人を酒でござまかさうとして居る、俺は酒は飲まん
のだ」

「ある時師終を起して、患處の轉送に車を誘求したらば
大隊長余計おれを出し」

「三十八夜や九夜の熱位は、何んだ車等いるものか、おん
ふ北の熱ぢやあ、いじやあ、いか」

「大隊長殿は何う思はれ、か知りませんが、匠の上より
は三十七夜を越せば、熱といひます、然れども、病氣と
体質によつて、身体に支障を来す程、夜が大變異つて居ま

す

何ッその位の事俺だつて知つて居ッ

ぞうですか

俺もまだ若い、またやつて了つた。知らん顔で悪病は車に乗せて療養所へ、あとは野とふれ山とふれだ。請求書は主計の所へ行くだらう。

療習後はもう閑だ。

十一月廿日除隊。

翌一月十日入

営正月に入てからは大變に忙がしい。この忙がしい十日

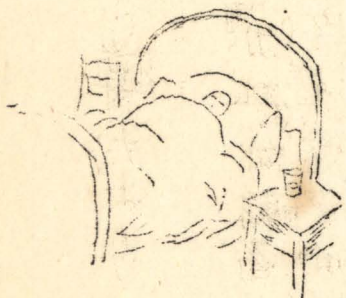
日を控へた八日には、アツペで入院、續いて腸チブス。長い

長い病院生活、あき／＼してやつと退院した。数日後、

軍医殿布轉任にありましたが、甲存じですか、との電

話下志津衛成病院附になつた。今一ヶ月間休んで、悠々

庶務に専心する。





小樽だより

関市衛

『刀林編輯系から原稿が集まら
なくて困るから何か書いて送ら
との巾衣紙を頂きました。刀林

貴行時に於ける編輯系同人の一方おらぬ中苦心奮勵
を豫々策知して飛ります私として此際何か書て差
上げおければ誠に申訳がないと考へましたもの、却説
何を書かうか生憎く何んにも持ち合せがないので仕方
が無く表題の拙なお便りをして義務を果たす事にいたしました。

小樽に参りました。から是かけ三年(正味一年半)ニ冬
を過ごしました。依て先づ当地の冬の状況から申上げ
ますが十月末から三月迄は毎日雪がその心に類似したも
のが降りまして殆んど寧ろ降り続けます、其間減る
に太陽のお顔を拝する事が出来ません。

寒氣や積雪之に相応する事いふ迄もありません。
然し乍ら室内に如何なる家庭でもストーブの設備があ
り石炭をドン／＼燃やしますからあまり寒さを感じま
せん。ストーブの赤く燃えて居る周りに一家團樂して
夜の更けるを知らず話に興ずる事は当地に於ける冬の
夜の美しい情趣として算ぶる事が出来ませう。(ドラ
ン、ポカ、夕、麻、雀、其他の遊戯も勿論あります)
日中は雪の處でスキーが行はれます。地勢上丘陵山岳の
起伏する当地では直ぐ近くに多数のスキー場がありま
す。小樽病院の若い先生方などにも天晴水邊手として
耻かしからぬ腕前の人があり「スキー」樂みで小樽と云
うに忍びないときへ云つて居る位です。

(註)に曰く小生共合宿所玄關の光景はスキー展覽會場
宜しくで何水岩らぬ斯道の勇士の面々は雪が溜ま
りたりなのにより早く雪が降ると「スキー」を撫で廻
して居ます)

歩も出来ず陰鬱な居室を眺めては多少の哀愁を感じな
いでもありませんが幸に病院には蒸氣暖房の設備があ
り帰宅しても室内は前記の如く暖かですから藪城して
居るには何等の羨望はありません。又長き冬の日の「リ
ヒトマンゲル」は結核性疾患などには多少の悪影響があ
りませう、其為めかどうか知れません。が小樽は結核患者
が大半多い様で内科でも入院患者の大部分は結核だと
の事ですが外科でも入院の半数以上は骨関節や淋巴腺
の結核などで占めて居ります。

四月末から五月にふりますと世間の天地は初めて長
い眠りからさめて万物甦生の喜びとでも云ひたい様不
脈々たる生氣が到る處に溢れて矣ります。此時期に於
て落雪と馬糞と煤煙の混つた一種形容し難い市内の街
路には閉口ですけれども一歩足を郊外に運べば消え残る
雪の下から萌え出づる活き／＼した黄緑色の若草や
枝頭に膨らむ鮮やかな蕾の色に無限の春の「エネルギ」
を見出すものが出来ます。

五月の初めは正に地土の種粟で梅、桃、其他の花が妍
を競ふて春は今ぞと汁り一時に咲き乱水ます。人は花
見に熱狂し公園などは昼は賑いもさること知らず桜の枝
に飾ら水左殿万の電燈の下で夜もすがら踊り明かしま
す。

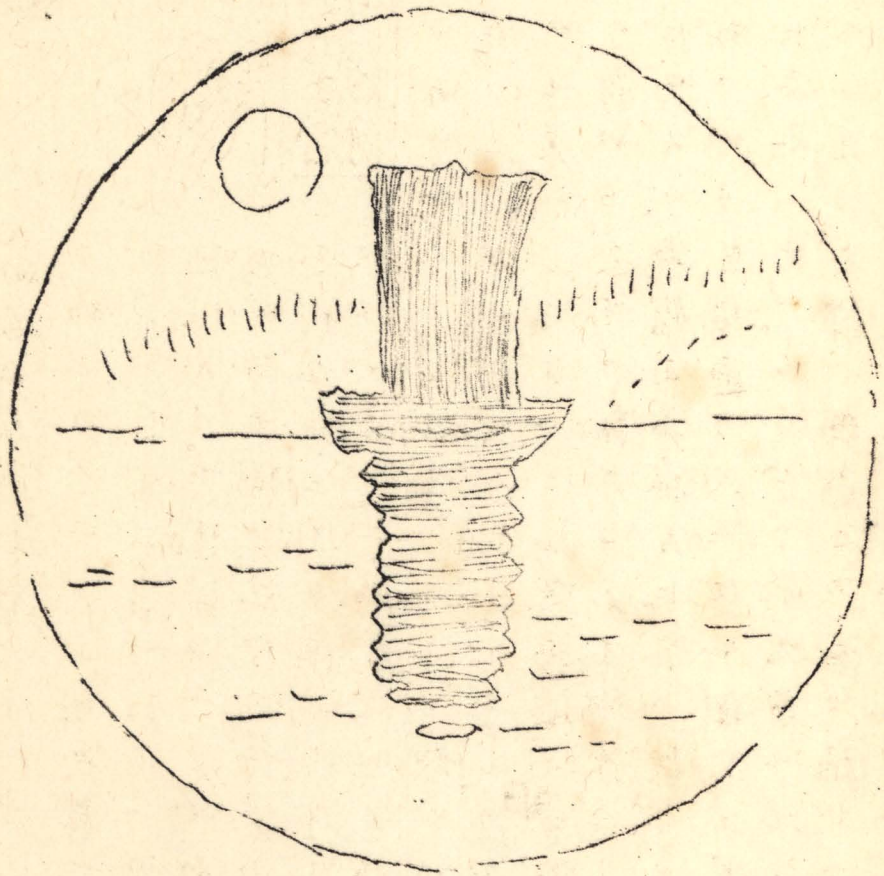
夏の期間短かしといへ日中に於ける赫灼たる日光
の直射は東京に負けぬ程気温の上昇を示します。が
夕景にはスツと涼しくなり夜間蒸し暑い不といふこと
は強んじありませぬ。七八月、小樽より程近き蘭島海
多、海場の全盛期小樽は勿論札幌から来る人も非常多
でせう、遠浅で海がき水いで感じのよい事は、熊倉江の
島を凌ぐ位です。

秋の紅葉の色は濃艶さし、東京附近の鈍色の紅葉を見
慣れた私達の眼にはほんとの目覚める汁り美しく見え
ます。赤と黄を立とし之水に緑を配した鮮麗な其いろ、
野に山に丘に畑に、小径の傍の灌木にも畦に生えた其薄の
葉にも色とりどりに織り出さ水左殿の秋の模様、何れも水

際たつて夕ツキりと羨しく見えます。

夏から秋にかけて豊かに産出する果実の美味さ、名物
林檎はいわずしが不、梅実、苺の大きくて美味さ、牛乳バ
タの優良にして痛便不りと共にどの位物産を喜ばせる
事ぞせう。最後に本場札幌ビール（地方行のビール）は
目ざせうです。味は世界を以て只之を飲みたいが為
に北海道を離れる事が出来ないといふ外国人（世界各
國のビールを飲み歩いたといふ）が一人小樽に残るこ
とを仰紹介いたしたいと思ひます。
鬼ひ切つて小樽禮儀をいたしましたが強ちに俄か作
りの御土産（？）計りではありますせん物は試し一交る欠
諸君の御末遊を望みます。（終）







傳多小女郎浪枕

かんかん踊に就て K.S.生

謝恩観劇會は吾々にとつて近頃最も興
趣深かつた園樂の一夕であつた。

あの時左團次主役の傳多小女郎浪枕で
毛刺丸石工門を團長とする海賊の一團

が遊女屋の二階に何やら程文めいたも
のが遊女屋の二階に何やら程文めいたも
の酒杯を叩き乍ら頗る珍妙なダンス

をやつた。これがかんかん踊といふものである。下は動
音で始めと兼知したけ小ども芝居通ふらぬ僕にはとん

不意味の勢やら又その踊がとん不由来のものやら皆自
解らずに只その滑稽な身振りに笑ひ笑じたのでした。

機舎があつたら芝居通の人にては聞いと見やうと思ひ
下らつた忘れの辰つたのですが先達と全く別な方面の

事と調へて居つた際に偶然この看の踊についてこの文獻
を得たので一寸の報告申し上げ極と思ひます。然し多

少風壞不点かあるうて備正柱殺不どは総て編輯の方に
仰任せられたします。

Can-Can Jump

一層々踊は十八世紀の末葉頃より

つばに流行と極めた探察不舞踊で genital organ と kloss の

Stellen することか踊る要素にふつてある。文政三年の

秋江戸葺屋町河岸の見世物芝居で興業した大改下りの

長崎流踊が江戸に於ける最初のかんかん踊である

然しその興業は歌の文句が頗る卑褻であるといふ處で

忽ち禁止された。

馬琴の曲亭雜記を見るとその預詞は次の様である

かんかのう、きうのれんす、きうれんす、さんち

よふらへ、さあけう、にいくわんさん、いんひ

いたいたい、やんある、めんこんふはうえ、しん

こんさん、もへんとはい、ひいほうはう。

け。文句にういて大通神代某の解説は次の様であ

る。

○かんかんのう、層々踊即みよ見よ

○きろの北んす、久阿戀鬼キウアレンスウ、久しく老鬼ふ、

○きろ北んす、左右

○さんちよふらへ、三叔阿、は他人を叔父分に尊みて祿

する言葉ふり、三男を三叔と申し候、女より恋鬼ふ

人を尊みし言葉なり、あらへは久しく鬼ふあり、

○さあほほう、賤割、蕃方役人の事

○にいくゆんさん、二官様、次男坊の事

○いんひいたいたい、戒指キヤツクワ大大、唐館内の和語にて指

かぬの事をいんひいと申す、大大は、大分或は澤山

といふ事、

○やんあろ、やろう即興へようの意、送爾ソウニに左じ、遊

女の言なり、

○めんこんふはうて、面孔不好的、顔のよくない、

○しんこんさん、心肝、長崎にて船に通じたる遊女ど

もをシヤニスと申候、唐館の遊女どしんこんと申

し候、おもひ人と申す意にて文字は心肝と書き候、
○もへんとはい、男根大、男根をへと申候、

○ひい *Palma*

○はうはう、好々

右礼への秋の心

見よ見よ、秋久しく悪鬼ふ三叔よ、其悪鬼ふ人は蕃

方役人の三男なり。その人を悪したふて指か収さたび

たび贈りしあり。然るにその男はよき男に非ず新みに

く、色黒けれども男根大きくて○○のかたにとりては

よろしき人なりといふ妻也。

萬葉集卷の十六ふる 兒部女王の秋に

美麗物。

何処不飽矣。

坂門字之。

南乃布久礼爾。

四シ

具比相爾計六。

とある、そのま意は醜き男の何処か飽

か来い処であるか、坂門氏の娘は醜い男の南の膨水

に惚水たといふのは余りの物好きで涙がわからない。

案ずるに神代某はこの看々踊の秋の解根に兒部女王

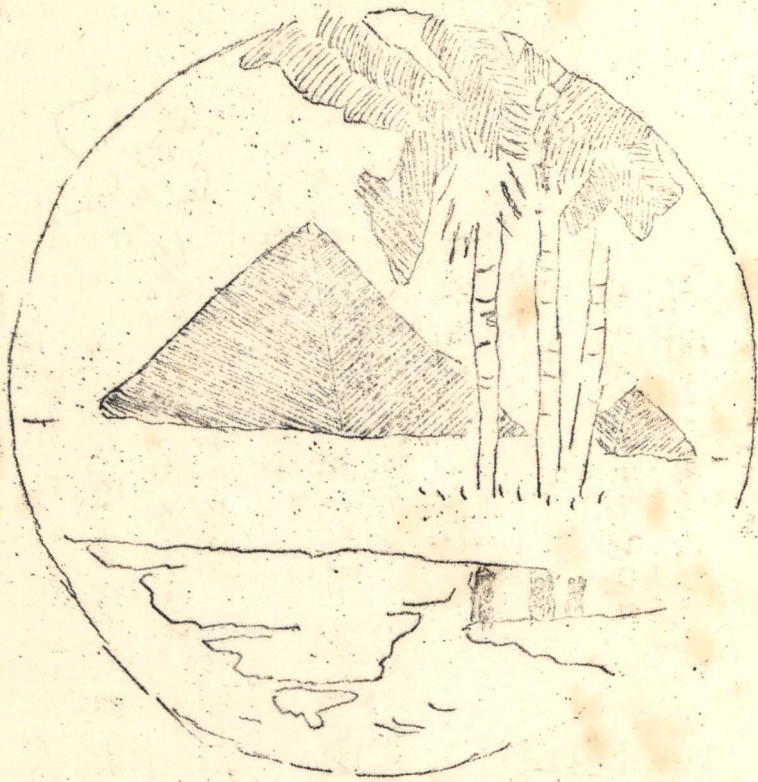
の秋の意を當嵌のたのではふいか——と某氏は言つて

ぬる。

江戸末期に返来した和蘭人により長崎に傳へられ時の文士の意氣に投合して忽ち全国に流行したこの看々踊が文政三年の秋業禁止とあつた原因は歌詞の卑猥あざではよくその舞踊が淫褻であつた爲であらうと言ふ人もある。

医局の會などで看々踊をかざる方は一應右の歌詞の表を御合みの上で且つ興業禁止を食はぬ程及び巾着りの程前以て希望して置きます。





医局

内笑話

尺生



アイ玉ヤン
今及圖書室が出来たら女事務員を
並くとイ・ネ
アソコカロ
そしたら皆んな競争



帰来

シラウン 俺水が一人別品を連れ来て来たやう
俺しと言ったら〇〇〇にいくらでも来た奴
がおるから……
えう……

オコレナサイマレヨウ
人間きが悪い……

(テオヤン)



諸君!! 町會談員總選考時……



人氣男



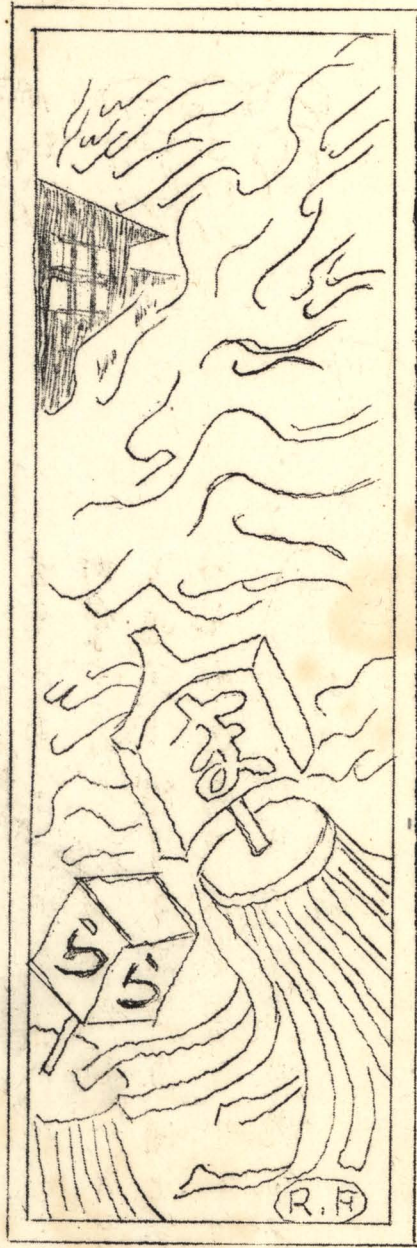
医局の人氣男は誰かときくと
 S先生だと答へるたろう。
 と云へばハハハ、玉キヤンしかと仰
 言ふ所の先生方が多し事ほど
 有名な先生方にはある。
 第一回生の「玉キヤン(オット失敬)」
 S先生は先頃訪国がス行脚よ
 り帰局された新選の「モカールン」
 先生である。時々エヘン……
 町會談員……とやり出しエヤンヤ
 と喝策と博するあたり何と言
 つても医局の人氣男はこれだけ
 だも博士の徳村は充分で
 あるんがある。

江戸に火事は附物であるが設備不充分に拘はらば
 余り大火にもならず大概に消し止め得たのは、いろは
 四十七組の鳶師の決死的消防によつたものらしい。そ
 の証跡には吉原の火事になるときつと大火になつた
 ものでその原因は言はずとも知れた、火消し等が各自
 の馴染の逃げ支度を手傳ふに汲々として火を消さう

△大岡政談

江戸小話

蛭留木老人



とせぬからであるといふ事だ。廊内に消防を常置す
ルは女にも倦きて此の弊も無からうと言ふ老人があ
つて其の様に決めたが扱てこんどはどの組を常置組
に入小るかと言ふ事になつて利害一得一失難問を生
むに到つたが時の奉行大岡は流石に明快に解決を興
へた。曰く「ま組に「ら組」に致せと。」

△夜鷹

深夜街頭に燈籠を賣ることには江戸時代からあつた事
で是を夜鷹とばとあだ名して上下貴賤の區別なく夜
間火事往診の帰りなどに利用したものである。この
名の起りは本所吉岡町に夜鷹と称する賣笑婦あり此
の嫖客を當込みに賣つた蕎麥屋に起原する。何故こ
の賣笑婦を夜鷹と言ふかといふに寒夜しのぎ難き時
鷹は雀又は鳩を足に扣み一夜を明し翌朝は之を放つ
と言ふ故実があつて之を「ぬくの鳥」と一般に称してゐ
る。丁度賣笑婦の嫖客を一夜過めるに足も似てゐる。

だから冗談に温めてやらうかなど、新らしい言葉の
つもりで使ふのは古いといふだけの話。

△墓参り

或日男墓地を通ると島田に結つた若い女が新墓の前
でサメ^メと泣いて一心に祈んでゐるのを見つけた。
此處にすてきな色男の居るのが気がつかぬかとニヤ
ニヤして見てゐると。彼の若き女すつくと立上ると
見るや着物の裾をまくり姫巾前のあつちもなく膝下
を露出して墓石にこすりつけて了つた。かの男驚い
たの何うて氣絶せん許りだが猶も見てゐるとかゝるよ
こは叔夜に及び又一心に祈んでゐる。たいして氣の
焦つてゐる様子もないので勇氣を鼓してどうしたの
かと聞くも若き女けろりとして答へた。「実は許婚の
墓にお参りに来たが「千香」を忘れたのでかわりに「万香」
を上げなすよ。」でなあんだ。

△屁の話

或る下町にとて、も良い女が居るが、養子になりて、がな
い。あつても一週間もすると黙つて歸つて来る。ど
うしたのだと訊くと、ため息をついてゐる。許り。喘不
鬼故な下だと鬼つて探つて見ると、彼の女一月一圓定
つて屁をすうのだと言ふ。馬鹿な話、月経ですら五日も
續くの屁あら、一時の話、珠に定期的のものあら、その
日一日家に居れば、幾ら大きな音でも隣りには真くま
いと養子に行つて見た。所が行つて見て、早まつた
鬼つたのは、一月の月が月でなくて、突きの間違ひだつ
たから大騒ぎ。

△弘法大師法話

弘法大師或る日腹をへらし、七山道にさしかゝつた。
見ると一人の婆が芋を煮てゐる。寄進に供り、長いと
言ふと、型の如く断つて来た。大師止せば、いゝのに法

力を示すは此如ぞと許りかの婆の配偶者ある若き燕
 を馬にして仕まつた驚いたのは婆さんで後追すがつ
 て大師に泣付いてもとの男にして吳小と言ふ。大師
 もとより夫の間の消息に詳しいのででは勘辨しやう
 と呪文を唱へると馬は次第にとける柵に頭から下へ
 と元の人間にあつてゆく。ところで今やそのプロセス
 が將に或る一物に及ばんとした時彼の婆やは再び感
 傷的の声を張り上げたりそこだけは馬なみにして置
 いて下さい。お大師様と悪寒戦慄を以て言つたと警視
 廳保存の經文に書いてあつた。



街の情景

夏の夜

ものぞ
ありうゑ

よこと申く

浪座の

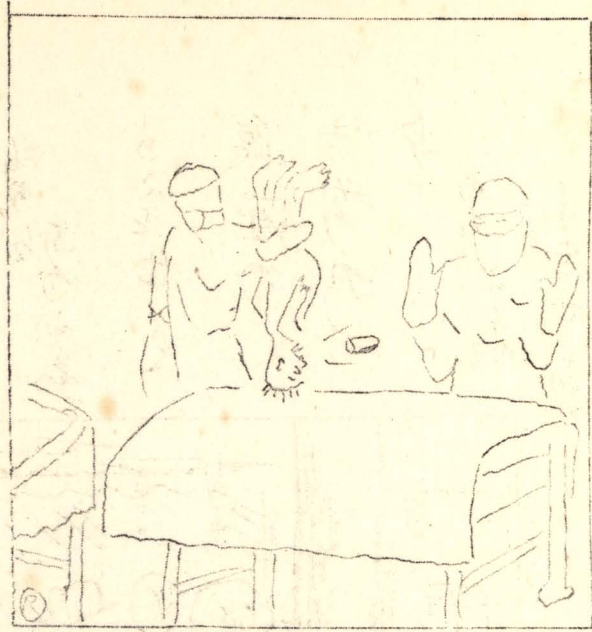
まち乃

よき

あちり
うね

—吉井画カ—





珍談氣管技の異物二例

太腹居士述

(小児が錢や針を呑んで芋
を喰はせて出た例を知つ
てあるが此水は氣管のお

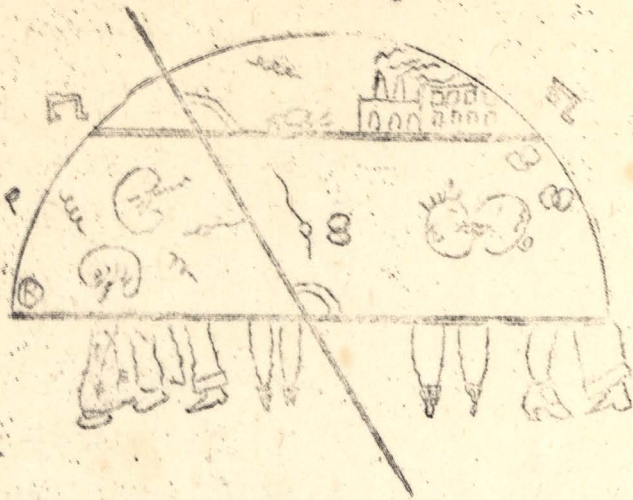
話)

○八才の女児遊まつて歩兵
銃彈を嚥下す。尔来異状なき
も来り治を乞ふ。既に二週を
経過し居小り。×裸検査をふ

すに左側氣管技に至り。如何にして取り出さんか。曰く氣
管切開曰く胸胸と談論紡々先づ動くか。どうか。体の位
置を變じて再び×裸検査をふさん。と上体を下にし。是を
上にし。体位を倒す。此の時ゴホン
たわし。床をコロ
歩兵彈 アガヤカ
先生今何か出

○次は他の病院にあつた話だが逸まつて齒科医の用申
 る螺線を嚥下すX線検査によるに確かに氣管にあり。
 氣管切開をやらうといふやうな騒ぎ前例を聞りて居つ
 た先生マテと侍と倒にするも出でず再びX線検査
 をするに螺線は氣管に姿を見せず之は不鬼儀とよく
 兎に胃の中に入り倒にされて口に吐出螺線は世の中
 に出るのを嫌つて再び食を通つて胃に入つたのであ
 つた二月まで方々腹中を見物して黄門より御出まし
 にあつたとさメテメシ



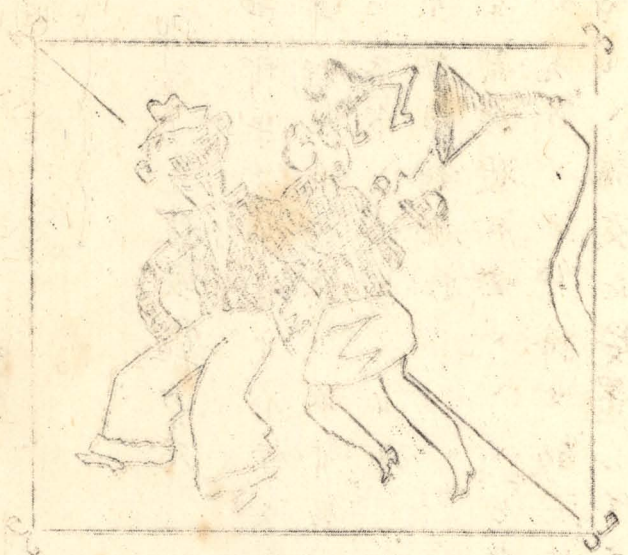


△三直 小 錯覚 上佐犬

都會生活は不愉快だ、混雜の處を
 惹起が流れる。

銀座の鋪道には踏虫がのたうつて
 ある、百貨店の賣場で女賣子が手
 袋をしてゐる、淫慾を教へた警官
 が医者に告発されて早速免職だ、
 岡タウがガリと踊へた廻は大集會
 場の裏門で声は聞へない、暑い光
 と赤い光がまよひまよひと協奏感だ、
 エイルリッヰにはサルバルサシを垂
 明して大鼓だ、コンドームを侮へ
 ば石現天だ、馬廐臭い。

△
 老婦がダンスをする、喇叭が
 鼓奏が過がる、古典と新派が競つて



君主政と社会主義が争ふ
文明の二重奏



◇ミ 戸田四郎平先生受難の巻

△某月某日戸田四郎平先生一寸小候を壺水ておる間に
俾ましくも永年汗と脂で作りあれた博士論文在中の
鞆を泥キヤンに失敬さ小着くなる。

然し翌日の東京朝日新聞に

京大医学部教授戸田、レと出た

記事を見たのか見ないのか紳士の泥棒は病院の便所
の棚にうやうやしく論文を安置して去る。

戸田先生存ばまい事か赤飯を炊いて申祝ひおさるし
とか。

戸田先生一躍して教授にはなる論文は出て来る、医局
には西瓜の巾馳堂は出る、こ、北と何水も大おろこび

その一
— みかん船 —

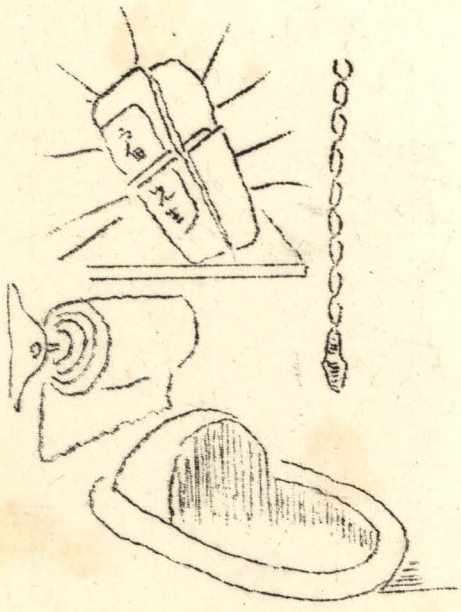
とはメヂタレ



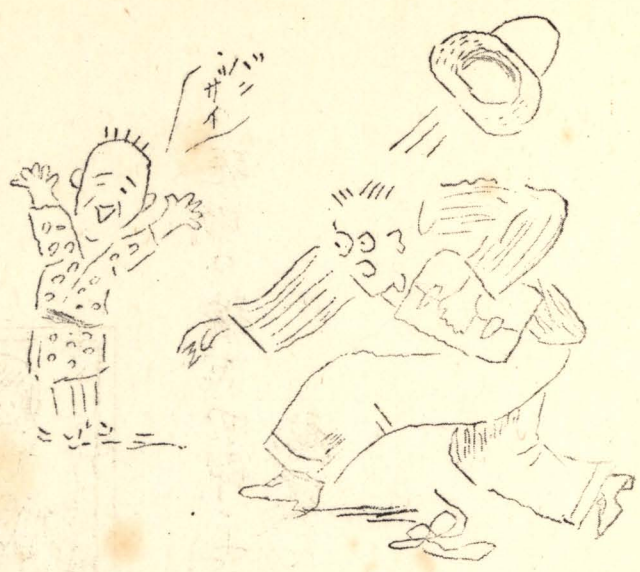
泥的の稼ぎ即乎を

教授にし

泥棒の校正臭い
白ひかり



（時 七月廿三日）



◇、蛸のたゝり

そのニ

△七月廿三日看護婦寄宿舎で蛸酢の酒馳壺にあくら水

戸田先生病院への送る不幸に
して牛の糞にとられ
何とぞ一野郎と而糞を
にらみつけられしとか
何糞ツにすべつて
四郎平腹をまて。

重症五十名軽症の數を知らず大恐慌を來せり。
 昔より「シ、喉つたむくい」の事は耳に蝸の様にきけど、
 た、喉つたむくい女ばかりに未、とは初耳の語である
 七月上旬我が敬愛する液辺夕二先生はるばる高岡前
 る頭角士の下へお酒の申修業をこに弟子入おされよ
 り、旬日を出でしてその一族即覚大挙して我等の女房
 彼たる看護婦諸嬢を襲撃せんとはよもや液邊先生の仰
 指圖いれざりませぬ。

如長曰ク

三人分喉つた人もあると言ひますから白狀

しますが妾は二人前平ら作ましたわよ……
 とシヤくしてぬらつしゆる、さすが平素液邊先生を仰監
 督あされてるら水のたけの事はあるものと感じ入つた
 次美

穴貫

注曰ク三人分喉つたお方は三人分の
 苦しみをあされ水と轉八倒あされたり



蛸総代曰く

へいアナタ夕たけは……
 いつちも兄貴かゆ毒話に
 ふりましてへ……

甘蔭で

苦味下敷は一才
 手ゴワイからあ……

○二人前くう左くせに
 平乳系婦長あり、

○大蛸のゑすとみて
小だこの大あを化

蛸目
コトシ
モンジャイ



オサカ
イメ

ナル
ナイン



麻布三聯隊

たより

A. H. 生



口二月

遠い未来のことに思つて居た入營の日が来てしまふ
 入營前日涙を振つて嚴かに制髮式を行ふ。其の時鏡に
 写つた憔悴した顔は立合人下君がよく知つて居る。
 一日晴、寒い日。当直先生方が麻ぼけ顔で起る。医高
 に別れる。毎日勤めを医高を離れることは假令十月
 でも辛いものだ。先生二人とM先生が可芝生製作の入
 營祝の旗(十字帯)を持つて例の如く値切つた因又で悠
 々見送つてとれる。宮門を潜ると今日かう仲間にある
 人が集つて居る。十時頃身長体重と型の如く体格検査

が行はれる。最後には軍医が身体右部の診察をする。僕の
番が来る。

軍医「

こんど件でも甲種か。何か病氣をしたらう？

（医者の万直生酒が件に悪かつたかも知れぬが

徴兵検査官が甲種にしたのが柳々々間違だ即日

帰郷にゐるかかも知れぬ）

小生「ハイこれまでに色々の病氣をやりました。

虫探

突起、腹膜炎、腎臓炎、中耳炎、結膜炎、トウホム、麻

疹、百日咳、消化不良、骨折、火傷、（もつと沢山言ひ

たかつた）

軍医「

ふし、もうそ水位でいいし

軍隊では助膜炎を患はてゐるので念入る胸部の打診

聴診が始まる。あやしかつたと見えて軍医室に廻き水

再検査をされる。彼曰

「君今別に変わった事はあいかからやつて見るんぢすよ。

私生部は楽ですよと之であつさり入管と決定したの

で自分の内務班に案内される。席台や手箱にもう名

私が付いて居る。軍衣袴襦袴下軍帽靴下襟布(皆軍隊
語が列べてある。若い班長(軍曹)が来て挨拶をする。次
は沢山往んでぬる軍服に伴を持つて行つて合はす(二さ
婆婆と反対だ)

君之水を見て呉水ませんかズボンが私のところ迄来
ますよ

「僕」はボタンのかゝるのが仲々面白いのですよ

「太い」としてモゲンズボンは「なんて段々馴

水馴水しく話し出す。約半時間で一人前の兵隊さんが

出来上る。やがて昼食喇叭があつたので食堂にゆく。

黒い胚芽米の夢餼が目につく。一方には人麩馬鈴薯豚

肉等の蒸付がある。グラブトに咽喉を逆らふ。兵隊に不

つと病院の二十突の即役に不平ふんか出なくなる。僕の

肩曠上茶椀や皿の洗い方が不充ふふのが氣にね、(又

証算三号参照)食後は宣誓式や中隊長教官の訓示、素履

試験(若者大臣の氏名支那の現状其他窪田山)がある。

戦反は度越東大が若三名、惹大千葉医大若一為日本医大

二名東葉明葉右一名總兵十二名である。八時半消燈喇叭
が淋しく深夜の鐘のように響いて来る。伏袋のやうな
毛布にくるまつて休む。ベッドの幅はろ号のベッドの三
分の一位しかあゝい。冷水の氷あゝい水一夜がどん
けて行くが容易に眠れない。

三日寒い北風が吹き宮庭は紅塵濛々として居る。朝早
くから敬社の仕方ゲートルの巻方を習ふ。速歩行進や

驅歩をやる。医者の中庭でキヤツキポール位やつて居
た佐だから鬼にやり出した過劇な運動に全く冬る。昼
チアス予防注射をしてあとは寝る。茶熱するものもある。

三日以後外に出ること、美味しいものを食ふことだ
け考へて居る。同寢生のM君M君が面會に来てく

水る。涙が溢水の程嬉しい。夕方皆揃つて酒保に行
きしる。こゝどんをば等詰めて来る。

平日水一回。外出をする。二日休が續く。こんな行遠し
い休日は生水てはじめた。中隊長の一般兵卒外出時
の注意が次の如く揭示されてある。

- 一、帰營時間に遅れる事。
- 二、外出先の敬礼態及服装に氣をつけよ。
- 三、酒をつゝしめ。
- 四、女に注意せよ。

五、自宅に帰つて親兄弟の顔を見よ。以上

十二日以後 演習日に日につらくある。背囊を背負ひ銃

を擔ひ駆歩で代々木、大山公園、中野方面に申くこと屢々
 だ、然しどん森につらくとも外で踏申く人を見てゐる方
 が隊内に居るよりよい。埼玉県の午房とかいふ村や千葉
 縣の小岩附近に行軍をしたこともあつた。飯盒炊事もな
 んだん馴れる。飯の炊け具合は棒で打診して判断できる
 やうに成る。休年の霧積温泉申すの事を思ひ出す。踏
 上測圖といふものもやる。その日の帰路、教官が田夕夕で
 先に歸つたので密かに本郷の或る肉やに上り込む入宮
 後初めて一同が娯樂で集まつて楽しく晚餐を共にする。
 二時間後田夕夕に分乘した我々は乃木坂に集まり隊を
 組み軍靴を預ひつゝ、あやしげな足どりて帰營する。

兩國から隊近徒歩で帰つたと信じてゐる。週番士官が翌朝起床時刻を延ばしてくれたのには怒縮する。

二時劇

□三月、四月

軍紀には益々縛られ演習は益々辛く終には墮壕掘ま
かやる。毎日帰るときは泥だらけの顔にある。隊隊長にい
はせるとこ水が不当の男性美だそうだ。寒さが去つて
桜が咲き出すと反対に暑さに苦しめられる。帰つて久
らの銃掃除が一仕事だ。棒に布を巻いて掃除する所は耳
鼻科の仕事に似てゐる。夜にゐると不寐番(火災衛生盗難
に注意する)をやらされる。病院の明番の俵赤もりだ。暖く
あつて来ると夕方は我が兵舎独特の屋上散歩が盛んに
ある。山手が一目に見えるので僕等の眼を慰めるものか
多い。北の方に病院の煙突や大時計が見える。懐しい。真白
赤田屋根の絵画級着々とした新宿市苑の向ふにはほろ
いや三越。反対の方向にはうねり文楽の三田。三田の向ふ

飯の屋根、船を浮かべた品川湾が見える。極く近くには乃木神社、一聯隊山服言女、大正不附道が見える。すぐ下の墓地の横を過る電車が忙がしそ。赤都念人をどん／＼運んで行く。四月中旬、桜が散つて青葉が出る頃から核闘準備で毎月復習がある。

教官「〇〇候補生、靴に油をどれだけ塗るか？」

候補「ハイ、知りません、イヤ、忘れました、終り」

教「忘れちやいかん、ハ、奴は水では被服修理にどん

ど、縫方があるか？」

候補「ハイ、グレ、又ヒ、マツリ、又ヒ、カヘシ、又ヒ、スクヒ、又ヒ、マ

キ、又ヒ、*Knopfnacht, Fortlaufende Nacht* 等より難かし

い

教「よし、被服、兵器等の害虫を知つてゐるだけ云へ」

候補「ハイ、シミ、又、イカ、チビ、マルカツ、又、ヒメ、マルカツ、

虫

教「今は油の種類を知つてゐるだけいへ」

候補「常用鉱油、枯納油、複合脂；あとは忘れまし、た、ヒマシ油

カオレ、フ袖も附け加へ水はよかつた。

こんな事も無理に頭に入水するがすぐ忘れる。四月末
核爛が済んで銃を返納した時は重病人が全快して退院
した時の様に嬉しかつた。

□五月、六月、

いよいよ、医務室勤務とふる。四月中旬入營した見習医
官(今年医専卒業のお医者さん)が金條に星三つ附けて活
躍してゐる。彼等は僕達より軍隊では後輩だが毎日外出
し当番も自由に使ふ。医局のMH両軍医殿もこんな時代
を過ごされたこと、鬼ふ。診断治療の勤手とは名目はか
りで十時頃から兵卒休養室に陣取つて營門の隣の面会
所に来る人を見て居る。若い婦人でも来ると眠つてゐた
看までも起きて窓に寄る。一日に三十人位は来る。僕等に
面会人が来て菓子でも持つて来ると鬼ち腹の中に取る
こんな穢教も勤めは、新兵舎見参に

青年團、在郷軍人、大学生、中学生、女学生、小学生、赤十字看護婦等降限なく来る。

五月末の習志野出張演習には軍医の役看護卒の役を兼ねて行程十里を往復歩く。名行軍をやつたので病人が出た。僕等も病人同様には疲れる。暑い左翌日は足の豆潰しで汗下塗りで忙かしい。出張中に三等看護長の階級に進んだので下士官に入れる。又迎い中に下志津まで歩かされることに決定する。

もう軍隊の事にはすっかり慣れた。色々辛い事も体験した。眼が廻つてもよいから早く地球が廻轉して夏秋が過ぎ去るにふるとい。十二月にふれば又医局に戻れるのふた。消燈喇叭が響いて来る。早く寝て除隊の日の夢でも見やう。



終。
(六月十五日夜記)



ふるさとの

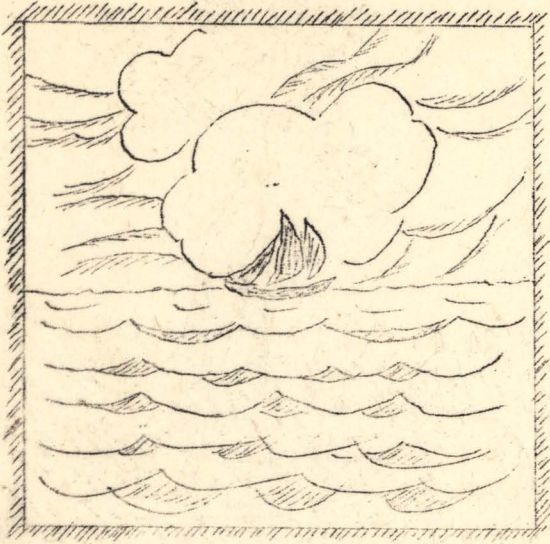
青ふかくさに

ぬころべり

我が少年の

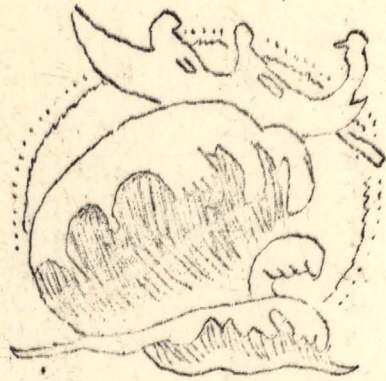
回ひ出にどし

— R 生 —



短

歌





に就ての感想として

臥牛生

△今より一千二百年ばかり前に大伴旅人と
いふ人がありましたその人が「酒を讃むる歌
十三首」が著葉集にあります千年昔も今と變
らぬ心を持つてゐると思ひます

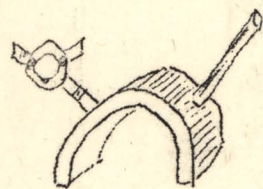
□ 驗シあき物と鬼はずは一つきの強化する酒を飲むべくあ
らし

□ ぶかぶかに人とあらずは酒壺にありてしがも酒に染
みあむ かひなきことを思をんより一杯の強酒を飲むべきやうなといふことぞ

□ ああ醜くさかしらをすし酒のまぬ人をよく見れば様
にかも飲る 「なまなか入るなかに生れより酒壺とあつていつも酒にひたつていたい」

□今の世にし樂しくあらば來む世には虫に鳥にも言は
ありあむ

□價あき空といふとも一杯の酒に酒に豈まさめやも
酒の讚美として實にうまく酒仙の心情をよく表してゐ
ると思ひます



—— 或る男の歌へる ——

磯千鳥

◇わがいのち死ぬも生きるも老ゆえとさみしく波に
さゝやける水

◇君とゆく松の砂浜をみのいそ沖の漁火あやしけに

も申

◇夏休み松のすふはま萩はふけて君と眺むる神の渙火

◇語らひて寄申むあひまにおそひくる(君がたもとの
甘きかほりかふ

◇しみじみと顔すりよせて語らひしある萩のきみき
わするべきかは

◇かりはじめの言の葉ありと慰へど北いとほしきかふ
ゆがまひひめは

◇わがあやみ知らぬば彼女うれしけに為みてものいふ
ぬえしかぬ申し



△ 若き日品海に遊びて

T.K.I

△

そよ風の
織細波に
残し申く
申られて遊ぶ
子等が舟

△

海面を渡る
そよ風に
ほのかに孕まはる
愛恋の嘆き

△ さ、やまを含んで

張る

子等が舟の帆

陽は赤じむ初夏の朝

△

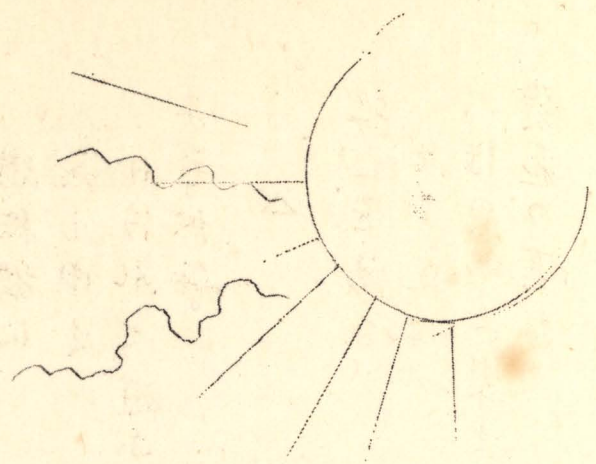
行手に輝く

小島が緑に

かすかにふるふ

情愛の勤情

柴沼薫先生（東京府下大崎町下大崎二七四）
 近い處に居り乍らついで申沙汰ばかりして居つて何
 とも申訳がありません。隔日に松永病院（市徒町）の方へ
 参り其の外の日には北研へ通つて居ります。そして夜は
 自宅で簡単な診療に従事して居ります。所謂貧乏眼也



しで頗るウダツの上らあゝい生活をして居りますか唯
今依も眞面目に勉強を続け先生の所高恩の第一に報
ひ斯道の爲に微力を尽したいと思つて居ります
尔来筆同窓諸兄の所健康を祈ります
(六月十一日)

篠原静夫先生

現住所 市外中野町打越一九六六

勤務先 神田区駿河台日本大学病院外科

何時も刀林の皆柝方に而無沙汰致し勝で申訳ありま
せん、元氣で働いておりますから而安心下さい、来平
はいよ、教室も十年に及びますよし、後木先生の而
健康と教室の発展を祈りいたします (六月十三日)

鷺見忠先生(岐阜縣本巢郡北方町)

昨年の五月父を失ひ本年五月妻を失ひ六月母を失
ひ全く天蓋孤独とありし身にはあか／＼以て筆とる
事、物うくて考へるあどの富稔も幸之只人の世の果

敢ふまを味じ佛壇の前に坐して亡き母の冥福を祈り
より念致には免之若壇所迄をシヤナリと流し歩
きし事ども思ひあすも隔世の感ありて涙新たふさ
の石之、只運命を嘆ふのみには申せ難
（亦を申によりと毎に返構りたすやも知れず其際又
申通知りたします）
（六月十三日）

今井金治先生（群馬縣富岡町）

拜呈カ杯茅四号を發行に際し之の御葉書と讀いて懇縮
して居ります。直ぐに互りふがう日頃申交けは請ふ
で申訳ありませぬ。カ杯が年と共に栄え申す候と
見て非常に心強く慰つて居ります
昨年病氣を入院して先生を娘の沢田君其他医病の
皆々揃に一方ふらぬ御世話にありました。この様
に存く御礼を申上げます。御陰で御會はすつかうま
まに承つて葉物教室を大々相手に仕事をし居りま
す。研究の方は一ツ所を行きつ戻りつしてゐる一

に逢ひません。

家邊の方には別に逢ひはありませんが唯ハナギにふ
る老父が重態の爲め目下御軍に歸つて看護につとめ
て居ります

會話と迎じて念友の皆杯によろしく

(六月十二日)

吉崎先生

初夏が来て愉快であるべきのに雪に埋れた冬を
春の傀儡はルて矣 炬燵で酒の味忘れかぬてにや
ども此頃に至つて健に雨の日にはピンポン、晴れた日は
テニスにいそしみ居り矣 上道甚しくテニスは桑野
氏と一騎打にてもよれ敗れまじく自信つけ居り矣 呵々
来月一日釣鮎解禁一日千秋に待ち居り矣
高貴以外の迎送ざつと。早々

(六月廿三日)

関

市衛先生 (市立小樽病院)

昨年一月頃から食欲が減退し段々瘦せて来るとし時々

胃が痛むので腹部をさすつて見たら何だか *neurony* を能
れる年々年々とし胃強では無いかと田中博士の診を
受けレントゲン検査もして其の胃に異常が無い(ポト
ト)であるが)といふ事はわかりました。何だか乳に
あまの
で二月末に上着して炭水化物村西先生並に西野先生の診
を受け胃強を暫定されました。目下暇さへあれば戸外運動と
大層元氣にありました。日先浴を兼ねて取り道楽にして居ます。年は取りたく
ないものです。

(助井君はお母様の病氣が悪いので横濱へ帰つて居
ます)

(六月十三日)

柳一先生(札幌より)

早いもので札幌へ来てから五年たちました。毎日先生
の手で田舎のわけの分らない病人を相手に同じ様
子を繰り返しては居ります。若い人々と一所で
すから自分の年を忘れて、まだ若いつもりで、夏はべい

スボール (ポールは小生の医局が一当強し、小生今も其技あり)、冬はス
キー、スケートをやつて居ります。都に育つた私は時
に都恋しく思ふ事もありますが、この頃の様に野には
鈴藻街にはアカシアが森には「カツユ」が鳴き、葎と梅
ん坊の時代にあると、此の園にも指て難い味がありま
す。度々外種送るも創立時代の事を考へると、明治神
宮外苑が出来たらポールが見う水と云ふと云ひ合つ
た昔が夢の様に思はれます。
皆様の仲健勝を祈ります

(昭和四、六、十三)

鍋島 魁先生

(横須賀市公卿町堀ノ内一〇五四)

昨年十二月から海軍工廠学校附兼海軍病院部長とし
て勤務して居ります。

朝八時から午後三時半迄は水に当直もあいと云つ

た様と思へば勿体ない福なその日、を遠ざけて居

ます。満期は来年の四月です。

簡筆ながら右中報告申上げます。

(八月十四日)

大庭国紀先生 (鎌倉ヨリ)

其後はたいへんごぶさたいたしました。皆
御様ます / 御違者系によりと存じ上げます

和昨年九月弟他海岸の近くには小医院を修築したしま
して診療に従事しておます。縣令入院定員七名全収容
能力十二名、名独房私一人で事務も水はメクロンボ
ーにもある水道下水夫にもあるといふ有様、ツクツク
開業医の悲哀を、實は昨秋披露をいたす心組の心組
のところが、まだ其の期を得ないのです。而し近日中には
あらためて披露をいたしおすはとありあへず紙上で
予告まで。

(六月十四日)

濱野碩太郎先生

大層御無沙汰しておます

炭水先生を始め皆々様而健闘の由を毎々刀林にて御
伺ひし蔭ながら喜んで居ります。医局を去つてから
九二年に於ります。慣水ふい開業医の職務に忙殺され

後つて筆不務にもあり勝です。一夜上糸したいと考へて居ますが、あか
出まません。學會が来年は大波に
あるそろでずから、其時こそは諸先生方や医局の皆々
様に申自にか、此のと鬼ひます。私の知は田舎です
がこちらにお出の節は申立寄下さい。自慢はアツペのフリエオンの喧傳と勤つり
です。しかし後者は本年三回行つたきりです。先づ取
るより取る化の方です。

(六月十四日)

高木宗吉先生 (南滿州開原病院内)

刀林の原稿の中案内に接し有難うございました。私如き不精者、筆舌の能に於て欠くる知あるものは刀林を請す以外に何物をも此のする事が出来ぬので申遠慮申上ないのです。けれども滿洲を勢力下におく爲めには滿鉄内容に對する相當の申了知を申致ひ申したいと思ひますから、其中大筋を申知らせ申上ぐ
る考へで居ります。

(六月十五日)

山田甫一先生

いづれから申すゆゆをいたしまして申訳もありま
せん私も大震災後退局いたしました諏訪の日赤支部諏
訪病院へ勤務昭和二年九月我が国生糸の主産地ある岡
谷へ乗りました当地は平野川岸湊の三ヶ村を集中し人
口約七八万開業医諸君も四十名近くあります。もつと
も国谷は整形の小阪先生の故郷だそりであります。坂の
土地に元郡立諏訪病院の分院がありまして郡制廢止後
村立となり平野衛生医院と改称し小生乍不尙継業同業
致しました。村立と云ふても村より補助があるでも不
し全くの一開業医と同称であります。病室は十三ありま
す。同院は代々外科を専門としてゐた關係上比較的開業
難はありませんでした。
而し多数の患者が来る訳ではありません。工場地帯なる
が故に健康保険患者は可成りあります。患者は外科的疾
患が多きも時には全科医にふる事があります。院組織は
小生一人、コレ三人薬局一人であります。昨年中の入院患

者の主なる手術は虫咬並々八ツ、ヘルニアニツ、膿胸五ツ、
肋骨々痛ニツ、下腿切断ニツ、骨髓炎ニツであります。
現在は入院六人、イレウス一ツ、ヘルニア一ツ、両足凍傷一
ツ、膿胸ニツ、下腿骨々折一ツあります。
上記訪に居りました時は富士見高原療養所の古川君に
よく会いました。が昨今は会いませぬ。
皆様も御眼をあそばす中、下さい。但し工場地帯故煙突
の多いたの不潔である事を御注意下さい。
六月十五日

68

竹下貫一先生

依田社病院、初めて聞いた人は、名前は依田社だ、とお
思ひになつて、せうけいれど、これは製絲会社依田社の経営
の病院であるから、この御名前がつけられてあります。
理屈はさうであります。が、どつちにして、も氣がきかない
名前であることは、事實です。名前が氣がきかないのと、同
様に内容にぬつては、更に氣がきかないのです。氣がきか

ないといふことの中には同情が含まれておますが同
情をぬきにすればたゞしがないといふことになりま
す。朝九時より夜九時迄十二時間労働せんに日曜も亦
ければ祭日もない、御に入りては郷に従ふたゞしが
あり過ぎてもはやつて行かれません。
(六月十五日)

上 石英選先生 (宮城縣牡鹿郡石巻町立町三九)

軒後の手紙誠に有難う申せいたしました。其後は別に變り
もなく傷りて居りますから申安心下さい。
本年四月仙台で周旋にあつた學舎のときは誠に粗忽
致し折角申出でにおられたるも充分接待すらも出来
なかつた事を悔いておます。實は当地にも申出でを致
つて近くは三十五及の帆を巻き上げて行くは仙台石
巻の今昔の返遷の有様と遠くは世界三大漁場の一た
る金華山沖の靈山にも申案内致しなす存じて居りま
したのに時日の逼迫からせられすから出来なかつた事は
實に残念でした。而し皆様の申帰届後申丁重なる礼状

を戻しました事は身に余る光榮と存じ深く感謝いた
します。たねあら。

(六月十五日)

古川明先生

(麻布歩兵才三聯隊才十中隊衛生部幹部候
補生)

二月歩兵三聯隊に入營後元氣で暮しん危ります近次
は医務室勤務です
まゝで子供が正月を待つように毎日除隊の旨を指示
り教へて待つて居ます

(六月十六日)

山田晟先生

(北浜道夕張町仕初)

拝啓皆々祈には益々而壯健の由奉存大慶候小生も至
極健全にて腰辨の生活をいたし居小は他事而休心下
さ水交候さて夜々而存教を煩はし申決之候が實は
余り平丸にて先の上土岐君は辭任さ小尚更淋しく申
上げ、か如き事共候はず謝口りたし危り候何卒お係
りよりあゝしく願上げ候。たび常に所幸があつかし

く候 草々

(六月十七日)

中村武重先生 (富士見)

刀林ももう第四号が発行さるゝ、表にありました。いつ
も何が書きたいと鬼つては居りました。誠心筆が松
あいのぐついで失礼してしまひます。中村君で病養所の
方も入院患者だけに就て言へば盛大にあつてまゐり
ました。治療記録も予期以上に下良の杯に鬼はれま
す。特に外科的結核に於ては自まつて居ります。富士
見は夏はさばらしく涼しい。しばらくの避暑にはよい
と鬼ひます。どうぞ皆さん布出で下さい。上諏訪は
手近かたし、湯問の温泉にもさ程遠くはありませぬ。

陽を浴びてうごめく人の様式

(六月二十日)

豊田秀穂先生 (平葉 鉛山病院)
拝復申後水と信おません。

私は鶴山に参りましてまだ一月に参りませんのびま
だ感想はありませんが大変よいところだと思つてお
ます

私の前任者即ち阿部先生が大変たの方を嗜まれました
た後を継いでいつても宴會ある毎に左うち可あり努力
しましたすがさつぱり酒量すまざる私の不精は困つ
ておます

(以下略)

酒につりての感想としては別に稿を改め
ましたから仰り承知ひます(編輯係)

吉野史郎先生

(吳特務秘書室戸士官室)

中書を以て大過なく仰奉公致居候今後共仰指導の程
願上申候

近況仰知らせ致候存じ居候へども何分筆不性にて是
ふ採にふら不悪しからず仰り承知下候

收具

(七月一日)

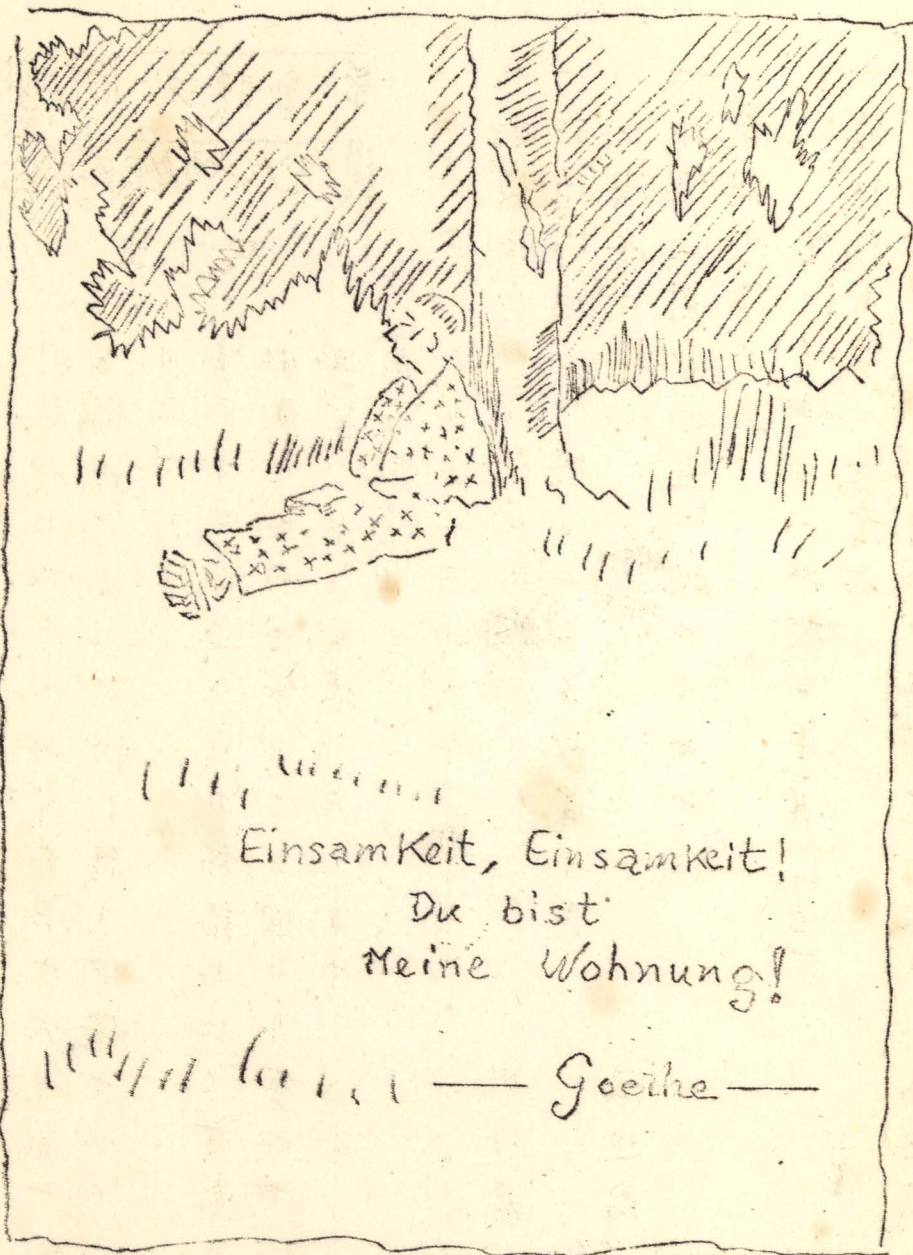
木村守江先生

何時もふがら諸兄の所指導を感謝す。

吾が慶應医学部が卒業を送るこゝと七回、これを人間に
たとへるとやつと川字兒童の適齡、次不先生が益々
白髪にあつて来るこゝと木村先生が何となくお老人じ
みて来るこゝとが心細くある、一体何時にあつたら先生
達に代るべき名家が生れ出るかと思ふ時に何となく
心細くある。何時迄も子供であつてはあらず、相互に
緊禪一番慶應の病に又先生達を安心させる爲にうん
と頑張りぬばならず、斯くすることかがやがては自己を
活かす道ともあるのであるから、先づ諸兄の健康を
祈る。

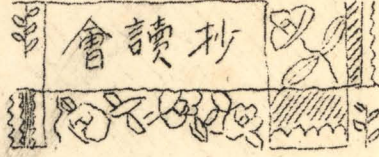
（七月七日）





Einsamkeit, Einsamkeit!
Du bist
meine Wohnung!

—— Goethe ——



R, T, 生

抄讀會は大正十五年六月十六日第一回
と開催され、此より引続き開催され、尾
ります。

第三十三回迄のほり杯誌上にて発表さ
れ、ましたので、第三十三回より第四十八
回迄の命を發表いたします。

(源君及病歿ノミ)

第三十三回(昭和二年五月十五日)

川田君

一、術後肺炎の療法に就て
一、殺菌作用ノ一因子として水素イオ

後田君

一、外傷性關節腫直の抗ロイマシ性

薬剤療法に就て

第三十四回(昭和三年一月十九日)

一、慢性關節炎の治療法

一、胃腸吻合術後の特有の後発症に就て

高巢君

一、静脈痛の療法

第三十五回（二月十七日）

一、タルマ氏手術法の一新法に就て

一、手術後のジンゲルツスに就て

第三十六回（三月廿六日）

一、手術不能なる悪性腫瘍の療法

一、縦隔竇の皮膚様腫瘍

一、腫道手術の一新法

一、脾臓とユレステリン（原著）

第三十七回（四月廿六日）

一、秋心症の外科的療法に就て

一、外科的結核症の乾食療法に就て

第三十八回（五月廿四日）

一、ガンリリキンの手術的療法

一、虫様突起の触診法

一、腹膜炎の膈下血汚療法

第三十九回（六月二十日）

吉崎君

高橋君

廣瀬君

中村君

鏡田君

中村君

戸田君

吉崎君

中久君

森君

高巢君

戸田君

一 本院ニ於ケル腸胃積ノ統計的觀察
一 新創傷療法ニ就テ

一 酸及塩基ト創傷治療

第四十回 (九月二十日)

一 塩基化ニヨル炎症治療ニ就テ

一 陰囊機能並ニ停留睪丸ノ治療法

一 虫棘突起ノほる丸ニ就テ

一 シレメン又氏法ニ就テ

第四十一回 (十月十八日)

一 乳腺整形術ノ一新法ニ就テ

一 寒性膿瘍ノ治療ニ就テ

一 捻轉性虫棘突起ノ切除ニ就テ

第四十二回 (十一月九日)

一 四肢ノフレグ毛ノ療法

一 結核性腹膜炎ノ沃丁療法

一 鼠蹊ヘルニアノ根治療法

第四十三回 (十二月二十日)

松井君
原君
沢江君

河野君
横山君
戸田君
竹下君

高橋君
川田君
高橋君

松橋君
玉置君
中村君

一、前膊骨々折牽引療法ニ就テ

一、骨折ノ筋膜使用法

一、血球沈降ニ就テ

第四十四回（一月廿六日）昭和四年

一、虫称突起炎ト外傷

一、胎生組織ヲ以テセル創傷療法

一、ヒボコールニ就テ

一、紫外線ニ就テ

第四十五回（二月二十二日）

一、扁平足ノ手術ニ就テ

一、慢性胃及十二指腸瘻瘍ノ手術的療法成績

一、結核性脊髄炎ニ於ケル流注膿瘍ノ爲ニ起レル假死ニ依ル死

第四十六回（五月廿日）

一、外力ノ作用シナイ腸破裂

一、膀胱異物ノ一例

一、トレンデレンブルグ氏肺栓塞手術ニ就キテ

古川君

鎗田君

中村君

君塚君

岩原君

竹下君

佐藤君

亘理君

波辺君

村上君

林君

佐藤君

佐藤君

佐藤君

佐藤君

第四十七回 (六月廿七日)

一 実験的 汎発性 腹膜炎 及 腸閉塞ニ於ケル

以上ヒ氏 菅ノ 抗毒素ノ 使用

一 胃痙攣 除ニ於ケル 腸系 胃吻合術ニ就テ

一 右腹部ノ 病理的 ガントリ

一 外傷性 虫刺突 起 炎ニ就テ



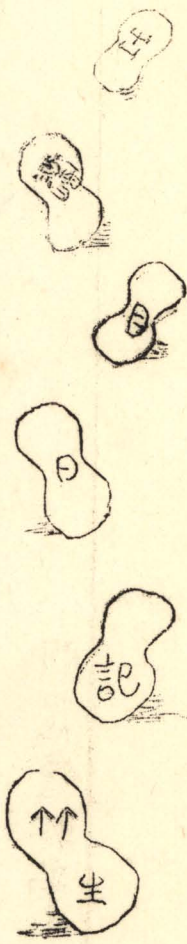
河内乃君
川田君
後辺君
中村君

御報告

来年の開局十週年記念大祝賀會挙行に際しまして
先般恩師後木先生への記念品其他に就き申相談申
上げましたところ皆称より申邊事頂きまして雅有
う申座いたしました。
去る六月七日開局九週年記念祝賀會の席上にて後
木部長より記念品等の事は辞退さ小まして之の代
り医局員にて十週年記念大論文集を作る事になり
ましたから申義知を願ひます。
何れこの事につき大儀先生より刀林誌上に申書き
下さる事にあつて居りますが一寸申和らせ申上げ
ます

同窓會幹事

三月十日 信州へ赴任といふ事で医局の人々に上野
 道送られた。汽車が出るとき「万戈をあげせかけらるゝ
 しい氣もちになつた。誰か「よう市面人」と言つた
 ような氣がした。市面人の片破は同時に赴任の途につ
 いた。朋友婦人科の今出君であることを市断りして置く。
 車中いろ／＼ふ事が頭に浮ぶ初めて奉公に出る小僧の
 様な氣持ちにあり乍ら大屋敷に下ろされた。病院の人々
 に迎へられ、自働車にて病院へ運ばられた。
 十畳敷の医員室、真中に炬燵を設けてあつて「さあどう
 ぞ」と炬燵へ入らるゝ水をモ—ニングに着て炬燵に箱入つて
 どうぞよんしくと挨拶した。
 炬燵の上でお茶を飲んでゐたら夕食の用意がしてあり



まづからと事務員が通ひに来た。食卓にも同坐した。親子
井が這べた。あつた。
食卓へゆく途中外來の前を通つたら患者が五六名来て
ゐた。誇らしそうに僕達を見くゐた。それ皆女であつた
こ水が当地の名物女工である。

x x x x x

□健康保険

来て見て吃驚した。今更愚痴を言つても始まらぬ。
舌耻かしくて言へた道理でもない。余想はまるで祈違
ひである。それでも余り違ひ過ぎるとあきらむのも早い
のである。兎に南病室を作らなければ駄目だ。本館二階
は病室に充つてはゐるもの、三つや四つでは仕方な
い。詰室や會談室と云ふ所が柄でもない。探ふところ
を巡り、決して疊を敷いて病室にした。それ水でやつと
二十人位は入水そうにあつた。
新任の先生から診察開始だ。具朝の新開に
外科主任 医学士竹下貫一といふ印刷の広告が這

入つてゐた。患者が二十名ばかり来た。その翌日は四
 十名にあつた。翌々日は五十名になり一週間にして七
 十名に達し一ヶ月にして百名を突破した。現在は百
 二十名を算する日がある。患者は目も苦茶に多くあ
 ったけれど、その九割は健康保険患者である。外
 科の処置として規
 定には大点迄あるけれども三点以上は報告して何
 にもおらぬ。それとしてみても、それとしてみても、
 たもの、四割も無条件でけづら水で来るので、全くお
 話にあらぬ。保険といふものは患者が多くあるだけ損をす
 る。と云ふ代物だから仕末におへぬ。

x x x x x

□信州は寒い所

冬は水の這入つてゐる鉄管といふ鉄管は、みだり破裂する

んだそうだ。その爲一冬越せば無論殺す水装置も用を
足さぬのである。三月中旬未だ當時は東京では冬
そろ遅かくあらうといふ時季だ。信州はまだ冬
の真盛りであつた。無益殺す水も何もない藁罐で沸騰
水を作つては水を冷やして使へば何れ又句はおいがそ
水が面倒だといふ事で普通の湯で洗つて手酌をした。
開腹術も水で七つ八つやつた。ヘルニアもやつた。
どういふ無鉄砲の事は勿論本にもなく教へられた事も
ない。初めはいや不氣がしたけれど化膿を起こしたも
のは一つもふかつた。結構やれるものたといふ自信が
ついた。けれども方に一つでその爲に生命に關する程
ふことかあつたとしたからば人道上許すことの出来ぬ
い事だといふ鬼つた。信州も五月が過ぎると暖か
くなる。只今では立派な装置により殺す水を作つてやつ
てゐる。

医局から外へ出ると色々な事に面喰ふ。自分も守門外
だからと言つて断らぬ場合がいくらもある。又守城

があるからといつて手術をやらないで置くといふことが
 出来ぬ場合が時々ある。兎に南有り合はせのせいで
 間に合はせ得る機轉と度胸とが必要である。外科医は
 メスと鉗とを愛好する。どんな手術でもメスと鉗とで出
 来るものだ。
 可愛い、子には旅させる。 匠を出て初めて匠の
 有難さを知る

X X X X X
 □信州と云ふ所

勤めらるゝまゝに飲めもしないビールウツ
 に口をつける。苦い液味の通つた味覚が咽喉の奥
 に沁るもしない中にそれは既に顔に現はれる。顔
 顔の所を血液が大きな勢で昇つて申くのがハツ
 キリとわかる。椀にあると頭の中は遠方もない事
 を考へ出す。この一片は即ちそれである。

信州の人間は山国の為かどつしり落着ついた所が
 口先は仲々遠着だが尻の方が開つ放した。うっかり

口先に乗ると飛んだ目に遣ふ。
還境は人を作る。陰気ある山々、峻しい山々をして極端
まで自己を主張する気分、寒い憂鬱する気候を水亦どに
抱擁さ水である信州の人々は勢ひそうした陰鬱な氣に
育ひ上げられるのであらう。けれどもあのアルプスの超
自然的小威圧と純潔と氣品とを取り入水得る人は偉い。

X X X X X X

□最後の傑作

十八支の女勿論、此は女ユである。右側足部の疼痛

といふ主訴。

一併保隙には病氣の中に入水亦い様不碌でも亦いもの
のが沢山やつて来る。此水もその一つであることは云
ふ道も亦い。診ても何の症状も亦い。圧痛も亦い。動かして
も痛いとは言はぬ。斯ういふ水に行々しく病名をつり
るには余りに症状は實である。勿論如何ある疾病か自分
には見当がつかぬ。見当がつかぬからと云つて診断づけ
ない訳にはいかぬ。病名として右足疼痛として置いた。

十数日後二日間休業した傷病手当金請求書(医師の意見
書)は事務で勝手に書いてやる事にあつてゐるので休む
必要を認めないものにも往々証明する事がある。が保険
署から附箋が着いて返つて来た。是れには

「右足疼痛とあるも症状にして病名に非ず如何ある
疾病ありや病名を記載相成度尚勞務不能の程度詳
細申通知相成度」

と書いてあつた。署長以下係員の印がベタ／＼と押し
てあつた。

煩さい事を云ひやがると鬼つた。どんふ病氣だから
からふいから疼痛として置いた。を素八のくせに症状
にして病名に非ずとは生意氣だ。癪に障つて来た。考へ
た。そして余白に「他覚症状皆無。是れ如何ある疾病不
り也。解り申さず。ロイマチスム」と云はばロイマチスム
又あまりに漠然と相成申候。と書いて返してやつた。
署長の奴どんを親するか? 是も / 是れが傑作の種で
あつたのだ。

数日後返報が余りに不謹慎だと言ふこと。保険署の書

証が実地調査に来た。僕に会い交いと云つて来た。
△「あふたはどう云ふ意味で申書きになつたのですか」
○「俺には解らぬいから書いたよ」

前々から條件がと、のつてゐると始つから喧嘩腰であ

△「それでは他覚症状が無し疼痛と云ふ病名を申書き
に申つたのはどういふ理由ですか、何かよる知がお

ありでせう」
○「患者が痛いと言つて来たから疼痛と書いたんだ」

△「患者が痛いと言つても何にもよるべき知があつ
たらどういふ診断はつけらぬいひはありますん

か？」
語氣はだん／＼荒くある。

○「それは理屈だよ、医者には患者の主訴と患者の様子と
によつて診断をつけるのだ。成る程痛そうだから」と

鬼へば立派に診断をつけてよい。」

△ 東の程痛さうだなといふのは何処でみるや
相手も仲々負けておない強情の張りだ。

○ 君は理屈ばかり云つておるからいけおいよ、顔貌に

も態度にも現はれるじやないか

△ 是れでは表情の巧みおまうが来て先生痛いですと

云へばあふたはよしと診断つてますか

○ 是れはつけるよ、俺も人間だもの巧みふ診断にはか

かるさ

△ 是れではこの場合お身たは只表情ばかりで診断を

おつけにあり二日間の休業の必要を認められたん

ですね

○ 是う云へば是うかお知小ぬが

少し形勢が悪くおつた。

△ 是れでは来傷で診断をつけたと云ふ説明書を書い

て下さ

娘さん、ことを言ふ奴だと思つた、

○ 是れを東に医者看が説明したのに診断した理由まで何

とかかんとか云はなくとよいではおいか
痲瘰玉がぐん／＼昇つて来る。馬鹿野郎ツ、

○曰さんおに面創臭かつたら俺は証明取消しだツ、娘

さいー、

請求書の証明欄に線を引きしてしまつた。書記はあきり
てみた。

△曰あなたは公文書にそう云ふことをしていい、ですか
○曰馬鹿野郎ツ、君には用はない、俺は証明しおいと云つ

て呉ル

経過は最後まで行つてしまつた。

数日お医師会の名義で長野まで出頭命令が来た。あの
ことだおあとすい感じだ。

定めらるる日に汽車に乗つてわが／＼長野まで出掛け
た。

医師会の事務所に行つたら藪くさい節が五六人並んで
ゐた。問題はお例の件につき保険署長が非常に怒つてお
るようだ。お水で医師会を一応調べて調停の労を取らう

といふ寸法らしい。
請求書を抹消したのが立派に公文書破棄にあるが法
律上の罪を構成し四月以上七月以下の懲役にあり
と断かされた。せしめ謝罪と云はれた。懲役にあつては
かみぬと鬼つゝ遂に謝つた。

謝罪書

私儀

六月五日係陝署大谷書記殿被保険者竹内と云の
件につき実査の際傷病手当金請求書を抹消致し
候は就職日尚残く健康保険法其他関係法規に暗
く何等考へた不致せしこと、申訳これ不
謹慎の意を表し謝罪いたし候

月 日

長野健康保険署長殿

取りに善光寺様へお参りに行つた。どうか英人園に
りますように。 | 六、二〇、記 |

△同窓會々計報告▽

昭和三年度繰入金 二六三^四七八

昭和四年度收入 二〇六^四五七

昭和四年度支出金 三二^四七八

差引残金 四三六^四五七

右之通御座候也

昭和四年十二月

會計

横山虎雄印

Jährlich über 400 Hundert
operiert!



御 禮

各地の諸先生方より時
節毎に美味しき物を御山
中送り下さりまして一向で
喜こん七傾戴告しました
何時に下らの御存念の程を
申礼申し上げますと共に美味
しい味の老北ふい探にと 執つて
おます
又時に念じ申退分の御寄附
を下さりませぬ諸先生に依
上をかりて申礼申上ます
庶務の怠慢で礼状差上げ
得ふのつたところ北あまの北
知れませぬが不鬼申許し執り
ます



同 一 員 局 医



拾週年記念ニ就テ

大養六郎

此水から十年といふ歲月は相当小長いようふ氣がするが過ぎ去つた十年を振り返りかへつて見ると餘りにあわたいしくたちすぎたのに驚かされる。

我度應義聖大學医学部外科教室で医局を創立した記念すべき大正九年六月七日北明昭和五年左月左日と以て正に滿十ヶ年とある。此間今日迄に医局を研究して既に社会に活動しつゝ、ある先輩諸君は四十六名で現に医局に立つて研究しつゝ、ある諸君は四十五名である。

此の十週年記念すべき為めに既に我教室に於ては、
茲亦先生と仲勉に十週年記念論文集編纂の事が決定せ
らるゝ今や着々其歩を進めつゝ、ある事を同窓會の諸君に
縁のお知らせ出願するのを光榮とする。

同窓會十週年を記念するには如何なる方法が最も適切
であるかといふ事に就ては同窓會幹事委員共に頭をひ

ぬつた事であつたが、幾平先生の御提案の記念論文集を
振へる事が最も意義あり且つ最もふさわしい事である
ので、恕ち此の談に確定した次第である。猶記念の当日は
記念式を挙行する事になつておる。

記念論文集に登載する原著は、過去の医高員諸君によ
つて作られつゝある事ではあるが、尚医高先輩諸君の原
稿を得て錦上更に花を添へたい所へである。どうか玉
稿を續々投せられん事をお願ひしたい。

それかゝらぬ一つお願ひがある。それは記念論文集を作
るには相当の費用を要する事であるので、どうか懇分の
申援助を願ひたい事である。

何れも明年の六月七日迄には装釘せられ、た慶徳義塾大學
医学部外科教室十週年記念論文集が諸君の机の上を飾
るであらう。



送
別

祝
賀

論文通過
論文通過

片柳常作君
戸田四郎平君

鑓田栄君
中村勝之助君
松橋一君



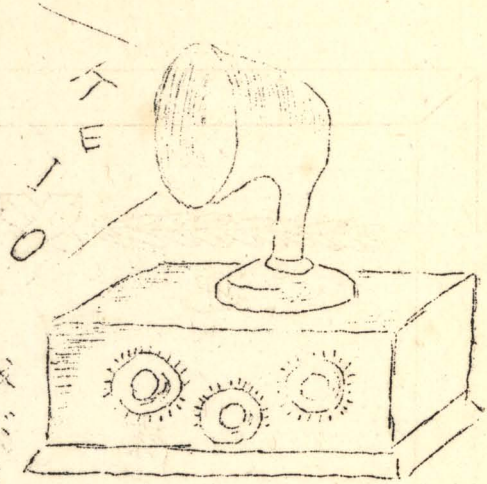
迎

歡

〃	〃	除	〃	〃	入	〃	歸
		隊			局		朝
生	吉	古	橋	森	志	町	草
田	野	川	本	下	田	田	間
幸	史	明	文	貫	元	謙	良
喜	郎	君	吾	一	秀	二	男
君	君		君	君	君	君	君

医局の價

素月生



世の中が段々進歩してまゐります、余が程注意してゐないとその進運に遅れます、ステッキガール、マネキンガール、トキキイ等々説明がつかぬわけば分らないものが、続々表はれて新聞紙の社会欄を賑はしてゐます。

我が医局もこれに順應して相当に變つて来ました、暫く医局を遠ざかられた先輩諸君が突然に訪問されたら喚かし置かれ、るこヒ、鬼ひます。

以前の医局が図書室にあり、当病院医局第一の立派なものが出来上りました、新医局(旧医局の向つて右隣り)の正面には電氣時計が新設されて、時間の正確を誇らしげに三十秒おきに針が動いてゐます、後例には鋼鉄製の更衣箱、その上には本の香新

らしい帽子其の他の置物箱が作られ、實に氣持よく整頓されておます、併し此と共に医局員が増加して来るので狭くあり抄讀會すら医局内でやれ亦外來第二で行はれてゐる位です、

この年で増加していつたらこゝ二三年内には阜子も腰掛も取り拂つても医局員だけが入水おくある事です、考はしい現象です、かくまで盛に赤りゆくのは茂木先生の内力と、先輩諸先生のお導きの大なる為です、此に今迄の如く我医局位にお互が氣持よく新しくいつておる所は滅多にありますまい、不平もあり不満もあるが此水を超越した医者の知識力といふものがあります、此水は確かに茂木先生の徳望の然らしむる所と思ひます、例によつて諸先生の所近況を御知らせいたします。

△茂木先生は頭髮益々霜を加へられましたが益々内健
凍です、野球と釣は趣味愈々深く釣は大分お得意
の碁子です、野球でも医局内屈指のフアンであります

通でおろします

△木村先生 最近の著の進歩見るべきものあり、同時に始
めた中村次、松井雨先生と三羽鳥の形でお暇の時には
烏魯を戦はせておます、周囲の天狗達に剛ま水あぶら

△前田先生 ニ月程前赤痢を隔離へ入院、間もなく中二
人のお子さんが巾入院、でも中全快で目下は廻診の友
に、大分よろしいの言葉で整形の助手達が師の教を
守ること、フレ、先生、お、よろしい

△佐藤先生 最近お嬢さんと奥さんが引続きアツで巾
入院、手術を遊ばせましたか、お二人とも全快
近いうちに先生の番です、ねと伺ひますと
俺のアリではとつくの昔に流れてあいなだからとの
お言葉、嘘か真実か。

△戸田先生 新聞に存在の如く愈々最近に増えにあら
れるでせう、此の論文が頗る曰くつきです、先生の僅か
の不注意から大切の論文入りの靴を盗ま、青息吐息
の折柄、東京朝日新聞の三面に、度大戸田教授論文を盗

まるといふ五号活字の記事が掲載されるの翌日不意
に「も」号病棟の便所から現はれまして先生は一躍
新聞教授となり名声を挙げられました。又「近」雑
誌社でその論文を失ったとの事です。よく「近」の
悪るいこととて「畜生」何処迄ケケがつくんだい!!と
天を仰いで慨嘆さしておます。一日も早く「も」一
夜飛び出すべきを医局員一同で祈つておます。

△沢江先生 布難続き、奥様の所病気が余り持ちしから
ず平塚へ轉地されたり。奥様の所病気が余り持ちしから
の市世話やら何やらで忙しむ。奥様の所全快
を一日も早くと祈ります。併し隙を見て某夜自働車
が横濱街道でパンク?したとの如目の下に「某」でホ
ームランを打たれたとか打たれぬとかの噂を聞くと
けの餘裕もあらねるのぞその点は「近」は「近」は「近」
△村上先生 頭髪が不幸にして益々減じます。が「近」は「近」
んがこの暑さにも予防医学で研究されておます。
近いうちに論文「」を「」の上「」を「」の方

へは大分縁遠くあらぬ此の処家では和氣霽々と兼り
ます

△神山先生 お父様にあられて同満ふ親が益々同満を如
へられました、僕の子供を見せてやういふと笑はれ
おがら言はれるときは此の世で最大の最大の幸福者
のやうです最近権太まで出張？さして大いに活躍さ
れたい由羨望の予どもです

△高橋皆先生 最近アツペで木村先生に手術をうけられ
大分苦しまれました。つもつが悪るいりでパントホ
ンをせがまれて賞罰長の賞目を少し下ゆられました
が順調に申全快少しはお肥りにあるたらうと鬼ひま
す

△中村勝先生 最近申結婚、その時の医者の祝電に曰はく
そりやスギーで鍛へた嫁片すべり込んでも怪我はあ
いと。

△渡辺先生 久しく万直居士で時々某方面へ申出張で

見たが庭遊甲府とみて「見合」をなす結構なものさ
さいまして「人生觀が變つたよ!!」との申説宣、余の程嬉
しきうです。たふ先生に幸あれびす、所が前休女を取ら
れ越後方面へ申避暑中、病院寄宿舎で諸嬢が「すたふ
に中毒したとかで大騒動、留守中でも「夕」が怒ると
こんふもんだい」と避暑地で怪氣焰を牽作られてゐる
むせう。

△原先生 カルボール療法益々妙味を加ふ、忘れつばいこ
と、石齡なること依然たり

△横山先生 竹下會計長の後をうけて會計主任にあられ
身作が肥えると共に貫録も加はりました、昨年男子申
出生「子供が朝早く起きて仕方がない」とこぼされてお
ますか内心は如何、甚の進歩は少しも認められず四五
日も置かした中村次先生に白を取られて「何を」バネリ
バネリ!

△川田先生 往年のモボ依然として医馬隨一、先々月7ノ
イモ「」とい号に申入院かゝる、医各員も驚いた位

の師重態でしたが大分和りと師全快その師親みの意
味でもあののでせうが時々妾宅に茫然の氣を養
はれどとか。

△巨理先生 整形外科講師に師昇格中喜び申上げます

△中村次先生 譯文()に富んでおられるとか慕の進歩整

然たるもので同時に始めた申では第一此知二三年に

は物凄いのにおさらうとの評判往年の活躍子此

の頃は猛烈な奥さん孝行 持てたものは

△岩原先生 瀋生舎から西病舎と本館へは半年以上帰ら

ないといふおぼしておられす矣隊さんをやめて一年半

いまだにあまりが溜えす先生とてあります

△鏡田先生 往年の三石齋が豊田先生おめられて二石齋

にありましたが大矢の張りその随一忙がしいこと。夜近

中開業の師予定とか

△松井先生 益々お肥りにあります轉がつて歩いた方が

お早いとか、頭髪も豊かに、一守中匠にはあられるし著

もざるを脱し此の知大当りです

△森先生 二夜目の外来副主任とかで、俺の地声だいとか
大声で怒鳴つておられます、併し才三研究所長の実力
は少し低下したとの噂いです、蚊の多い蒲田から着物で
即登院、室内遊戯はどうも性に合はあいと一所に始め
た先生方に三四目おいて「へんどんふもんだい」
△河内野先生 徴兵検査にのがれて大儲り、最近万直を止
めて、近知に堂々？たる一家を構へ、あ、ワイフがほし

△高橋福先生 相変らず飲んべい、最近何に感じてか西病
舎ばかり盛んに当直をやるので、藤奈婦長大分氣をこ
んごめるとか、それを知つてか知らずにか「西病舎の当
直から引きうけます」

△玉置先生 本年市結婚、至極真面目にあられましたと
の奥さんが素晴しいシヤンヒの事で「羨ましいなあと
言ふと「何善通や」

△松樹先生 万直の一人ですが不鬼議に土曜日曜日はず
帰宅家には何かい、事があるとのもつぱらの噂、新ら

しい洋服にパスマの帽子又四とかのスリキ完手に
どうだいモダンだらう併し川田先生には遠く及ばず
△君塚先生 最近人生觀を變へること三五、飲めは必ず酔
ふ方で某方面への出張追々濃厚熟を出して巾入院全
治して曰く俺も早くかゝを貰はふと

△片研先生 最近巾入院ケートンを買おのも固もないう
でせう

△林先生 軍医中尉殿軍隊におられ水色も真白巾すき
あつはさる蒸と湯上りのビール一杯

△佐藤盛先生 医学博士におられ水色も真白巾すき
さ小た由理立は至極くの樂天家某方面に大活躍さ水
とこの専科王女かん侍士と呼べはあいな

△森田婦長 相変らず壯健で働いてゐますよくもあんな
なな身体が軽くものです話懐か殆んど全部すたぶんに
中善しましたたがぬ長は二人前ぺロりと吟べても平氣
なつたことえういす
△石先生 避暑地でぬ長は若手ないと苦笑せられてゐる

いせう

W先生



おどり。

Y先生

X先生

◎今
何踊り
おせう



オレは
おれ



お言葉多謝。

(R先生)

新入局

第七回生 座談會



幹事、今晚は別に所馳走、此中座のませんが、中徳リと
中話を張ひたいものぞす。そ、水では先づ自己
紹介と井上君から始めて戴きませう。

出身中學と特長と、艶聞を伺ひたいと思ひます。

「噫、水た声で目鏡かけた、頼狂と思はれ、男。相子……」

「私、井上太郎であります。名前は平凡でありますが、

人間が變つて居ります。中學は芝中生、水は、此茶と言

ふ人があつたら、其奴は怒やしつけて下さい。大阪が本

當で、滿州は大連で育ちました。人は私を粗忽しい男と

申しますが、これは嘘です。只私は二つの事を一夜に
考へる能うに欠けてゐるので、若し二つの事が一
夜に頭に浮べば、二つの事は混同され、一つの事を行
ひます。たとへば、プレートとを染めてゐるときに塩
せんべいを咬つてゐる事をふと鬼に出せば、もう駄目
です。プレートとトは二つに分かれ、口に入つてゐると
口に入つてゐると言つた類です。その他看護婦総動員
で探した、ケヨウキが家へ歸つてみると、おやんとあつ
たり。カラ〜とネクタイを忘れた学校へ来る事などは
要々です。但し、女の顔は大概取違へない積りで、今後
皆確と申交際願ふ上に於て心配な事は、当直中夜中に
皆稀の枕を奪ひとる事が一やなう事あると思ひます
が、これは今から市用指願ひます。以上種々の症状を
呈するのを *Jarvis's* *Krankeheit* とおをつけた男が居
ります。が、全くその通りです。相手
矢張り目鏡をかいた、赤い赤い顔の男、立上り
「僕は吉岡晴衛であります。ウ〜中学は横須賀で、中学時

代には海軍の軍人になつて戦争に出たいと思ひまし
たが物心つくにつれて医者になることにいたしました
た、ウーをルは海軍に入つても戦争のあるときにしか
人は殺せませんが医者になればいつか人を殺せる
と思つたからであります。私の眼は細くて眼鏡にし
にきりきり老るのび女子の中には恐ろわがるのがあ
ますか、ウーこれは或る物さ物色してゐる眼で従つて
女の子は別の意味で恐れる必要もありませんが、この
光る眼はたとえば油蟬の声は弱々殺風景と思はれる
事かあつてもその実軟らかい下心のあつての声と言
つた様なものです。拍手

小作りの優才男口かそう言へば少し曲つてゐる男立ち
上る

「中村廣人ですお断りして並きますが別に恐つてゐる
のばないんですこれが地の調子なんです生水は九州
中釜は熊本です熊本でもこの通り五尺二寸十二貫の
やさ男なん心すから多分先胆は檀の浦平家の落人だ

らうと思ふんです、然し熊本の血もまぢつておます。その証據にはこの通り、怪は毛だらけです。私の言葉ぶりには少し恐つた様なので、何か話をすると文句を云ふと言つて皆で私を文句次官にして仕まつたのです。文句大臣は何れ後で出て来ます。幹事は艶聞を話せと言ひますが、その心なものはこんな如く話せたいんじやありませんか。拍手

大人道

と言つ

左感じの男

破小鐘

のやうな声を出す。

私は八木勝郎であります。横濱で生れ、中学は神中へあります。家は酒屋であります。から大抵のその上、事は知つてゐるつもりです。私が東京の何処かのカフエーに申せば、女の子が皆僕のところへ集つて来て、ふんふんかあります。が、その水は嘘であります。が、僕の顔も名字との聯想のつく女が一人、二人必ずおる事はあります。が、併し、この水で人間は仲々堅いんです。左、いして、仲々、この水互ひつもりです。殊に医局に入つてからは、此が、し、く、て、先程幹事の申す水、まじ、た、艶聞、を、ん、て、こ、れ、つ、き

しも申座いませんです工、拍手
がつありした髯画の男かん暮い声で云なめづりをし頭
を構ま乍ら

僕は小口守一です、申字は真岡です、いやどうもこんな
ところでは話をした事が無いので何と云した北のか。鬼
に角僕は真岡を出たんです、真岡といふところは中
学生がすく短刀を振り廻す所、ところが僕は大きな
事は為さず、かつたんです。この間帰つたときにカヤダ
が小便をやらうかと言つた時に小便は要らぬと言
つたらこの野郎あつさり物を云へ若生に小便が要ら
ぬ事があるか、つて叱られましたよ、小便をいゝねえ
と言つて叱られ、水のほねのて、おねー、

大向、その辺で艶園を舞ひます

「オイ、オイ、艶園なんぞ、ぬえよ、いたつて、乳が小せえんぞ
なあ。大向、土曜日に髪を、なむつけて、そは、
ののはなんぞ、」 拍手

高、あれかあれはその、... 大向、許嫁だらう、...
五尺八寸の大男割にあいさな声で

私は日向宮崎中学出身、身が劇中であり、ます、即ちの通り
十九貫あります。が、中学の頃はオートで、北野球で、北
んで、おやつたです。今は東京の下層で、洗滌代をとら
る、が、馬鹿らしいから、自分で洗滌、洋り、為、おより、ます
人、品は、剣、う、正、直、で、氣、は、体、に、似、合、は、ず、川、さ、い、方、で、す
ハ、ッ、ハ、ッ、何、か、力、の、要、る、仕、事、が、あ、り、ま、し、た、ら、甚、ん、で、致
し、ま、す。、 藝、園、は、玉、へ、帰、る、と、い、く、ら、も、あ、り、ま、す、が、暑、い
位、で、す、か、ら、こ、の、辺、で、止、め、ま、せ、う、わ、い、ハ、ッ、ハ、ッ、
頭、が、人、を、み、で、体、の、若、者、の、要、る、い、れ、だ、男、立、上、の、一、寸、堂、々
し、く

私は、お、方、久、敷、で、あ、り、ま、す、華、族、探、の、探、な、れ、で、す、が、華、族
心、は、あ、り、ま、せ、ん、借、し、是、で、北、川、當、然、は、学、習、院、者、ん、で、す
別に、後、お、水、七、度、能、に、違、入、つ、た、ゆ、け、で、は、あ、り、ま、せ、ん。
多、習、院、で、書、つ、て、体、に、屈、枯、が、な、い、と、い、ひ、ま、す、か、ら、口、許、り
雷、の、く、き、つ、工、年、柄、年、中、人、の、悪、口、と、揚、足、と、り、を、や、つ、て

居りますが量^で人は悪くない積りです。兄弟が族に
藝術家が多いので私は葉風の歌を咏みますが量^を
発表する所が三四會雜誌なるもので唐人の詩言など
と皆讀んでくれません咏木や晶子の標名取文取たい
不歌心系いと現代は通用しないと見えますえなんで
す艶家ふんてふいよ。口が悪いんで女の子がよりつか
ぬえや。柏子

わけに皆の履かたのが立上る

私は百撰定七郎心ありますこの間迄カクベエで出つ
た男でありますえ、学生時代専ら食ふ事と運動する
こととを専心にやりましたのむ包が黒く皆が履びまし
た。省録でよく女の子が懐しそくに顔を見つうで自信
を付けてゐると何だ電車加様水も勢で倒れて来たし
ないかと抱腹に隔つて居たんです。私は三十四五年
早く生れると大変な陸上競技の選手たつたんです。知
り持つてゐるレコードは生うですね四五年前の日平
のレコードよりずつと良いのです。がね新お若心して

レコードを上げると世間は不思議に一步をんじて
ゴードを上げてとう／＼今日直世間に進後しゝ来ま
した。先程文句大臣と言ふ下が出来ましたが貧乏の
下を指して私は中絶の如く溢しいむつりした男で未
だ嘗て女と話をしな事は一歩もありません。申し匠
水ましたが出来方は神戶の園西病院であります。初子
色黒く丸く穿の入ったソーセージと言ふ感じの太男のつ
り立上る

私は瀬尾膏三と申します、高田中宮出身で生れを明
からスキートを履いて居りますのでどんな馬鹿でも下
駄を履いて歩く下が出来ぬ程に入キートを履くのはま
あ慣れて居ります。元来私はパルクキンソニスと
言ふ名を一付交けた事がある程陸上にはたは所謂の
の肉でありますのでスキートを次々甘んじたりツツに
掛けた迄には居りませんがかゆくもかすなすかすは
いて雪の上を歩くのには差支へないのです。外水
泳山系系スビードのはまの無いものに意味をこめて

辰ります。 艶園はこの里までかき

も出ぬ。 七す。 物手

さく。 フルドソグの箱を男で

初は海軍に辰ります。 加茂銀

とろしく所狭ひします。 若き

懐きました。 即胸ありまし

歩掛け。 恥じやありません。 か

石は愉快に赴はなす。 嘘です。 艶園

エーに通った。 花の。 すがこ

の。 ペリ。 レ。 コ。 テ。 ハ。 イ。 カ。 ウ。 五。 男。 口。 の。 中。 で。 鏡。 長。 り。 出

し

初は小野田肇と申します。 加茂

が。 ネ。 ク。 タ。 イ。 の。 ナ。 田。 守。 の。 を。 愛。 する。 花。 子。 を。 恋。 した。 り。 洋服。 の

ダ。 フ。 ル。 オ。 タ。 ン。 の。 を。 着。 た。 り。 す。 っ。 て。 心。 遣。 へ。 浅。 草。 の。 モ。 タ。 ン

エ。 ー。 ン。 と。 名。 を。 つ。 け。 た。 ん。 心。 ず。 が。 何。 の。 意味。 か。 わ。 か。 う。 在。 い

光。 不。 展。 値段。 の。 高。 い。 わ。 り。 に。 洋服。 が。 引。 立。 た。 車。 口。 っ。 て。 っ。

それ。 で。 浅。 草。 に。 言。 ふ。 の。 か。 い。 そ。 う。 じ。 や。 亦。 い。 よ。 君。 僕。 が。 浅。 草。

幹事

「エーお菓子をご用意して。」

終

よ
 のカフエに遊ばに行くからだらうちかみかい。君は
 りと面白くお僕は長唄を八年踊りを十年やつてお
 よ何時か見せたいやうか。北う沢山たつて、おん
 言ふおよえん。おんおんおんおんおんおんおんおん
 なるから何時かカフエを奢つてやうか。運動が、何
 何のスキーに行つてひどい目にあつたよ。艶圃か女
 先生に何か買つてやつてお友達にあげるお金か
 か、およおんおんおんおんおんおんおんおんおん



漫とは、以¹ろいさま¹はての、不¹い¹ことを意味するものに
 して、従¹つて漫言、漫筆、漫談、漫遊、瀾漫と云¹ひ、少しも悪¹い
 意味を持たぬ、やれど漫(慢)性淋疾に立¹りては何人も好ま
 ざるものがある。

乱とは、みだる¹治まらぬ¹ことにして、乱倫、乱心、乱暴、乱雑
 乱筆と云¹ひ、何れも良い意味をむたぬ、殊¹に病人が乱脈
 と云¹つては、治癒の見込みなきものである。やれど乱臣
 (國家を治めるはたらきある臣)に至¹りては何人も敬意



万年女子

を表せざるを得ぬ。

物の名は物を區別するたための符牒で犬と猫とは同じからざるが故にこれには犬彼水には猫と符牒をつけて區別したり。

人間は耳、目、鼻、口、手、足を備へ何れも同様の品物ある故に銘々符牒を附けて之を區別しおけ水は不らぬ、此人に姓名のある譯ありと。されば姓名は人の銘々の符牒ありはどん亦名を附けてもよき稱亦水ども魏代にはあまり適せざる稱に鬼はる、姓名の所有者もわたり。

誰れか妻と妾の區別を知れりや

妻と婦人あり妾も亦婦人あり等しく婦人にして侍る物も同じく、男子に事ふる共の職務上に於て毫も異なる所なし。

唯異なる点は妻にして子を産めば良人の子にして妾の

近來特種職業として、マキヤンがこれに不才の職業を算
 するものあり職業に貴賤なしを敢てこの種の職業を算
 下するものありざるも如何に喰肉の爲めを供ひ
 あまりに悲慘なるものでありおもしろき世の申す所の
 分で進めば往來にて口カトルを露はしち金を取り職業
 婦人の出る所も逆業婦業あらん
 時代の推移には驚かざるを得ぬ

或る博士の論文に

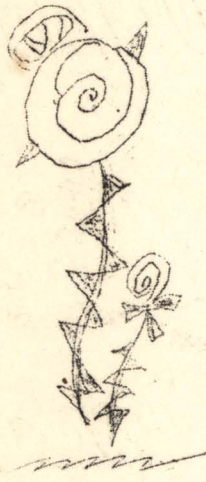
男子の道具は皮襦袢が本體である故に素人は妻く包莖で
 ある日本人は包莖を耻辱の如く心得るが包莖は文明人
 と同様天性完全な道具の所有者であると思はれぬ
 ぬ彼の場所には神聖の最も鋭敏な所であるから皮を以て
 包んで置くのは医学上から鬼ても当然のことと鬼も常
 に龜頭を露出せしむるものは日本人と權太人とではあ
 る人種の方面から鬼ても露出慾は権作さるべからぬ

あるとの奇論。

さるど包茎党は淋疾にかゝり易き傾向を有する所に鬼
は水は泥田を歩行する者は大いにまくるべきであらう

植物学者の実験説によると既に生殖作用を了へた花
は雨に降ら水ても平氣であるがまだ其生殖作用を了へ
ない花は少しの雨にも直ぐ首垂れて其の生殖器を保護
するやうである。

これは恰度男子に椰楡は水た財お婆さんはシヤア
としてゐるに反し未通の娘さんは顔を赤くしてシナを
するのと同じであるとき。





蟹の穴

山國にて
竹生

蟹は甲羅に似てその穴を

掘ると云ふ

云ふことは総てくだらないこと

である

○田舎の病院へ行くとき誰かでも料金の安いのに驚くと
 思ふ、東京の大手な病院で百円二百円也の手術料を
 取ることには慣れたる人には是れが当然の事に思は
 れてゐるが地方へ出て百円からの手術をやるには是
 れこそ大手術であるからぬ。

まのあたり農村を兎、彼等に接してゐると如何に彼等
 は金といふものに縁遠いかを思ふと、正当であるべき
 手術料の請求は氣の毒な思ひをする。とくに我々外
 科は患者に痲痕といふ永遠の記念を残すのである。患
 者はそれを見る毎に苦悶を追想するであらうし、医者
 に向つての感激を忘れずしくするであらうことを考
 へると物質上の彼等の負擔は出来るだけ軽くしてやり
 たい氣持ぢにふる。

自分の所の手術料を仰覽に入れます
 虫様突起切除 五十円以上七十円以内
 ヘルニア 三十円以上

痔核(ホワイトヘッド) 二十円

痔瘻肛門瘻 十五円以上

イレウス 六十円—七十円

胃腸吻合 七十円

甲状腺腫 三十五円以上

陰囊水腫 十五円以上

包茎

十日

肋骨カリエス

二十日

膿胸

二十日以上

乳癌

四十日以上

四肢切断

五十日以上

以上とあつても大抵は最低である、

etc.

○

我々外科医の経済にすぐ影響するのは繃帯材料である。繃帯にぬる時には少しも問題にしておなかつた。が、繃帯のことにが小さい病院へ行くと一番に問題にある。が、一枚幾何か、繃帯一巻いくらか、総うく計算してみたら人は少ないだらうと思ふ。小さい事ではあるが貧乏人相手では矢張り貧構臭い。ことを云はあけ心ばあらふ。

以下の價格は現五僕の所の價格で所に依つてはこより安いこととあらうし又高いこととあらう。

がーぜ

一反二十九円である一反で四角をかーぜは二十四

取出糸のから一枚の價一糸二厘にふす、糸程丁寧に
再製して使はぬは勿体ない。

〔四〕

一反の價五十六分である、瘰癧等に用ふる繙帯は
縦に八袋横に四切にして一卷の價一糸七厘五毛、少
し大きな六裂二切にすれば四糸六厘六毛となる。
腹帯は一反で三箇作つて價二十八分である。
丁字帯は十一箇出来て價五糸一厘である。

〔院〕

一白十二枚で三十一分である、外科には糸の細
人科で用ふるタレボン用糸廿一分一枚で凡そ十八
箇出来、故に一箇の價九毛である。アルコール綿
として用ふるは一箇凡そ七毛の半である。

〔絆〕

不經着な代物である、
鉈革絆劍著鑷入一つ一回である、
は三十六年裂け一つ一本の價一糸七厘七毛となり二
Johnson の
Johnson の
の五
の五
の五
の五

分幅に裂けばニ丁九本裂けて一本の價三才四厘ハ
毛と成る。今乾燥カビ極へに十五cm三本を用い
たとすれば凡そ一才八厘余とある。ハ加十大の絆
創膏は一籠にて丁四枚と水一枚の價七才一厘であ
る。しかし北米水が一圓限りだから勿体ない。

ヨードあるいカビ

石倉製膏印丸未入が一圓六丁五才である。故に一
才四丁八才三厘と水を四割にすれば四才六厘と
ある。瓦に詰め込むおんカビ北四才六厘とすの
である。ペリトニケス等で三ケリウ少のメレボン
寺行ふ時は少くと北ニ丁才と要する。

油紙

百枚一圓三十二才であるから一枚一才三厘ニ毛と
なりハワ切にすれば一厘七毛とある。

リント

一本七十五才 硼酸軟膏一ポンド入一籠か九十二才
二一本に一籠用いたとすればハかキ大のポールサ

ルべは凡そニ夫七厘とある。
アワペや外来の細帯交換の枚料かど水だけになる
か暇があつたら計算してござうじら。

○ 都合と田舎では総ての点で勝手が異なることが多い。

アワペおどむ何時から痛いかときくと何時頃かうと
云ふその頃と云ふのがあてにならぬ。北四時間乃
至四十八時間経過してぬきから大丈夫早期手術を
と鬼つてやると中の変化が飛んで北東の状態にある
ことが多い。三回失敗つちやつてもう次と云ふ奴は
あてにしぬいことにしてぬき。そして今交始の左
と云ふのが初めてぬきぬきの松と総ての標だ。田
舎の人は感しが鈍いのであらうか。

井

※

○ アワペと云へばアアセスを作つたのばかり取扱つて

ぬきと色々ふことを工面する。腹腔内の膿を拭くに
濕布を用ゑししておくと常に乳持ちよくアイヤルかと

ル。
未だ蒸布を使つてみたことのない方には是れ襦布を
使はれ。こゝを仰勧めす。

※

※

○フルクタクオン と云ふことは若人が自命心會得す
る感じであつて第程人によつて感じる程度が違ふら
しい。ことにフリスゾーレやハンドラルレル、ロンゲ
ルスピツチエ等のフルクタクオンは僕にはあまり感
じず小存いことが多い。

フリスゾーレ等の角質の厚い所では深りアゴセ
スには疼痛だけで一才見えて強んど変化を察見するこ
とが出来ないことがある。その極度場合には法丁の
薄いもの(局方とアルユール七十倍に稀釈したもの)
を塗つてみると角質がやゝ透明となり内部のアゴセ
スを透視し得ることが多く面白と思つてゐる。こ
れはやつてゐる間に偶然発見した方法で正確はアゴ
セスだとおぼへばすぐ法丁を塗つてすかしで視てお

る。切開。インダイヤカチオン及びヘルドを確かめるの
に都合がよい。
嘘だと鬼つたらやうなみたまへ。

※ ※

○稀沃丁と云へば警形の前田先生が使はれる稀釈法で
川生はすべて一〇%を使つてゐる。蓋つはなしてよ
いので至極便利で経済的である。
細交等にもし勿論一〇%である。
それから沃丁カブレのする人には次亜硫酸曹達液を
消毒して沃丁塗つたあと拭いたうよかふいかと鬼つ
てゐるが此水はまだやうなみたまへ。

穴が小さいのですぐ泡吹いてしまふ
もうこ水くらくらむ止めとかう

△一月一日

医局新年宴会
手術場に新年祝賀會及福引があつた

五日、渡辺治生先生病氣療養中。迎浜松より歸



医局
會
報

伊藤若七

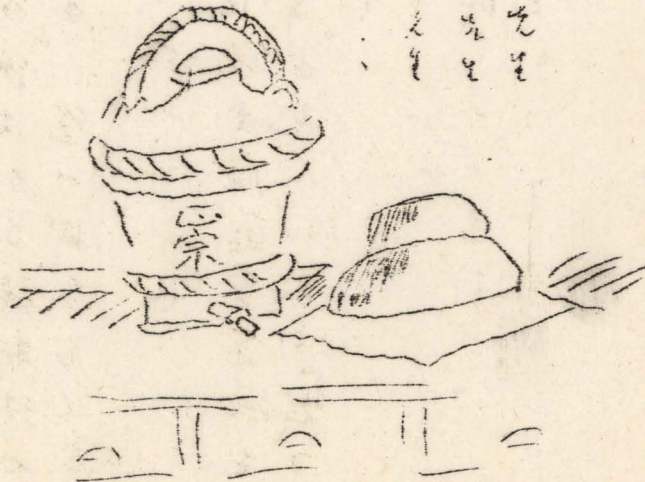
三三村

中橋一様

水元一様

謹賀新年

一月元日



十一日、友不先生に招待同志會新年會を四谷口セ
虎に開會。

十六日、やせたる者の會を開催。

十七日、神田學士會館にて関口先生の送別會古川、
河内野西先生の壮行會を行ふ。

廿六日、抄録會

△二月一日、古川明君麻布三聯隊に入營す。

末日

関帝衛先生胃瘰の疑ありとて逢々市上京
友不先生の診察を乞ひ異状なしとて帰樽
市土産を多分に頂戴す。
関先生有志歓迎會を赤坂久保田に開く。
玉置先生結婚。

△三月二日

△三月十二日

竹下先生送別會

黑板の掲示板

本日竹下貫一君送別會

於高士見軒 凡品の用意なし

自午正六時

會費金 田

但し茶室を利用する人は五時出発

田ヲ利用する人は五時半

徒歩の人は四時出発

追加の白

正六時より裸ダンスあり

海老丸方は一生の不覚也

十三日 草間先生帰朝

十五日 竹下先生長野縣丸子所依田社病院赴任

吉日 関口先生脚里前橋にて開業

中久先生鴨川より歸局砲矢工廠診癩所
勤篤。

三十日

仙臺外科学會へ木村、佐茂、石田、原、渡辺、横
山、直理、の諸先生出席す。

△四月一日

林利流君佐茂盛二君外十一名の諸先生
入局す。

四日

学会の宇中廳方會を赤坂鳴門に開く。
森田婦長伊勢詣り。

十三、十四日

新入局諸先生の歓迎旅行

十六日

神山先生令夫人由嬢さんを甲斐安産
氏子さんと命名す。

十八日

習形外科某談を平通講堂にて開催。寺不
君難やかに講演。
暫く西東廻りをし、備中存りし佐藤盛
二先生入局。

新入局諸先生より多大の叩馳走あり。

廿日

新入局の小野田、加藤兩君海軍二年現役に
赴任。

廿六日

赤松常信君結婚。

廿八日

安永先生風邪の氣味にて即不快、而快癒の
早からん事を祈る。

卅日

三田豫科會新居復歌出来。

独立自尊は我等が誇

独立自尊は、い、い、い、

賞状

徳子君 浴辺浴生

右之君近來シヤツ洗濯手入宜しくシヤツに困る人に賞与
したる哉奇賞の至り依て表彰す

昭和四年四月三十日

洗濯監督 森田奇異女史 [印]

右 証明す
賞四割係 巨位 高橋哲太郎 [印]

△五月五日

医学部職員オートレース 外科討菓物
ニ 艇身の差にて大勝。

十三日 佐藤盛ニ君論文通過

十八日 早慶第一回戦。球場の観衆雪崩水七頁傷
者續出、球技理大繁昌。

廿日

豊田秀穂君暫く病氣静養中の如金快さ小
阿部先生の後任としし鶴山病院に赴任。
早慶二回戦大勝。

廿一日

早慶決勝戦

医局協働員本部を引苑救護に並く。
早慶決勝医局にく収杯を奉じ本先生の
喜致に二万歳。
大満會を開く

廿二日

寺平先生医局を去る
論文通送

廿六日

対青山外科定期試合引分
野球 庭球 ビンポン リレ
夜蒸樂軒にて鶏腹所池壺になる。

昨日 前田教授赤痢にて入院即全快を祈る。

△六月一日 中村勝之助君結婚。

七日

開局九週年記念祝賀會と外來第ニ診察室
に挙行。部長始め本村、佐藤、大塚、福先生、阿部、
野田、藤原、近藤、山本、の諸先輩先生並に席多
大の所寄附あり盛大に行はる

十一日

駒井君母堂死去せうの即忌中申上ります

十八日

佐藤助教授令嬢アワへ再登炭不元生執刀
の下に手術さ水経過良好。

廿日

後田先生虫様突起共に執子大衆に呼ばか
ける。私共は虫を放任した爲に起る悲劇を……
……心よりこの一篇を皆様にさしげます……

廿二日、
高橋育陽先生入院

△七月一日、
互理先生講師昇任

佐柳先生歸省

四日、
高巢先生天津より令夫人同伴中上京。

五日、
鳴門にて互理、佐藤兩先生祝賀、佐柳、高巢、阿部先生祝迎、會々催す。

十日、
高巢先生、岩手縣黒沢尻町和碩病院へ赴任。

十七日、
佐文柳、高橋行返曲（寄五日詠書）

懷古戀想銀座柳
誰識娼艷媿櫻女
連夜連更酒樂裡
迎晨潜々踊娘淚

△八月吉日 鎗田先生足利市伊勢町に所開業。

十九日 ツエペリン伯号東都に飛来す

△九月一日 關東大震災記念日

三日 澤江先生即今園永らく即病氣のヒこり終
に和去さる。澄んぐ哀悼の意を表す。

高橋哲先生存稿にて即入院。

吉日 中村勝之助先生輝夫英園病院に赴任。

廿九日 茂木先生即招待舟遊び海安海岸にて催さ
る。正倉有五十衣大凍り一日を愉快に送
し皆不陸成でお土産を貰つて帰る。

三十日 木村先生昨日舟遊びの途中より腹痛にて

入院さる。即恢復と祈る。

△十月一日 液邊先生助骨々痛にて入院さる。

七日 町田先生スマシト有姿で帰る。

八日、町田先生帰朝歓迎會を中野辰みのにて開催。

十六日、早慶野球決勝戦に惜敗。

廿二日、早慶戦にて氷山先生切符の所骨折とし七松喜にて慰勞會を開く。

廿四日、匡高旅行園鹿島立山の荒水さん事を知る。

廿六日、送原原寺和尚三賦

和尚好華貴時大 為石炭酸仕事起
切勸勉學更不容 連日床上耽勝負。

送別之辭

王曹操書

策砂此人南山壽

不避山砂至林泉

虎龍一翻知空將

矢漲奔馬醉唯南

王王好名蒙幾卷

雲邊風邊花生嵐

△十一月一日

天覽早夢野球數十二対。壘大勝す。

五日

共下志田西先生歡迎松橋先生送別の宴を
四右不了釣に開く。

六日

松橋先生山形市篠田病院に赴任。

十四日

整形外科集談会。

十八日

戸田辰柳西先生日出友論文通過。六時より
赤坂鳴門にて祝賀会。

廿五日

茶話會之医師にて謝きお礼を決議す。

廿六日

抄護會所田先生の改米漫談あり。
渡辺滋生先生実生病氣入院する一日七早
く医師を賑はさん下を祈る。



病院の近況

先生

病院二年を重ぬる事九年昨年よりは想
形と一結になり医師員も三十五名あり多

きに達し七み不患者の治療に力を入しんをぬます入院患者
者も年々増加し百三十のベツトも時々塞かるといふ有
病も本年に入つて一日に手術料千圓を賦す一二回、是の
方毎に後示先生より医師員一因に起す存祝の而決まら
ぬ有標かす。

出稼実起各例により増加するばかりで昨年は総計で
三二七。本年は九月末に既に三百〇七といふおて本年申

には四百を突破せんとする勢である
現在の外系患者は一日平均

新患 約廿名

旧患 六十七名

痔核、痔瘻、アト、肺巴腺炎、等
多おつた。

入院患者は本院六十三名

西病舎三十二名

である。

(病名及種彙は別項の通り)

整形外科に於ては前因教授来任せらるるより新習識を以て治療方針一新せる此の種々ありてその成績も亦上りました。例へば骨折治療の如きは主として無菌血的処置をなし加ふるに自から考察せられた前因式上肢或は下肢牽引装置の装用によりてその全治療日数を短縮するを得、又同装置は関節疾患に用ひて利するところ多くあります。

其他省推かり且又にギブスベツト以外に三位、斜面の伸張法をやつて居ります。ベツト数は五十九で現在在外系患者は

沙卷 一日平均 十五名

旧患 六十名

心カリエスガ痛モ多く骨折脱臼(元天脱臼)奇形ハ是小仁
次リニおゐます

入院患者ハ本院 二十名 西病舎 十七名

之ノ病名及種類ハ大畧左ノ通りニす

(整形)

病名	本院	西	病名	本院	西
脊椎カリエス	六	二	肋骨々々痛	一	
膝関節打撲	一		柘液索痛	一	
股関節結核	一	一	足関節炎	一	二
ククク脱臼	一	三	悪性腫瘍	一	
贅肉、趾	一		膝関節炎	一	一
斜頸	一		腸腰筋炎	一	二
骨折	一	三	小児麻痺	一	一
指縮	二		横隔膜神经痛		二
ヘルニア	一		捻挫		

(外科)

口肛	外	腺	膜	痛	疔	疔	痔	乳	虫	病
内	围		膜					腺	糕	名
疔	疔	疔	疔	疔	疔	疔	疔	疔	疔	疔
一	六	三	一	三	一	一	一	一	二	本院
									〇	
									四	西
肉	溃	骨	瘰	血	胃	骨	腸	腫	疔	骨
腫	瘍	折	疔	管	疔	髓	疔	疔	疔	結
疔	疔	疔	疔	疔	疔	疔	疔	疔	疔	疔
一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	本院
										西

同窓會會員名簿 (入局順)

東京市四谷區東信濃町二八 (電) 四五六八	茂木藏之助
東京市四谷區三光町 五二 (電) 六二一六	犬養 六郎
福岡縣田川郡赤池鉦業所醫務室	成松 清敏
北海道札幌市北四條四十五丁目一	柳 壯一
神奈川県鎌倉枝木座	大庭 國紀
東京市外野方町上沼袋一六〇	中村復一郎
静岡縣浜松市八幡町七二九 (電) 八六五	梅村 六郎
岐阜縣本巢郡北方町	鷺見 忠
東京市麻布區築所八〇 (電) 六五二五	亦村 博
東京府下千駄谷八七一	草間 良男
新潟縣柏崎町本町六丁目	高桑 武夫
東京府下荏原郡大崎町下大崎二七四	柴沼 薰
東京府下高田町高田三七三	戸田四郎平
神奈縣都筑郡日奈村長津田	森 信彦
川崎市貝塚一二	阿部 貞治

東京市深川區西平井町九三

長野縣諏訪郡平野村

茨城縣結城郡結城町一四一六

東京府下蒲田駅前

上大崎町四一六

左 落合町上落合四四六

南滿州州原滿鐵醫院社宅

長野縣富士見高原療養所

東京市芝區濟生會病院社宅

北海道夕張町住初炭坑社宅

東京市外杉並町區橋一七六

京都府宇治郡醍醐村

北海道小樽病院外科

長崎市金屋町二二

東京府下東中野一七六六

洋行中
宮城縣牡鹿郡石卷町立町三九

、片柳 常作

、山田 甫一

、稻葉 俊雄

、大槻 正路

、町田 謙二

、赤松 常信

、高木 宗吉

、中村 武重

、鎌田 竹次郎

、山田 豊

、山本 豊

、本郷 光美

、関 市 衛

、反田 豊

、今井 金造

、上石 英造

東京市赤坂區新坂町二五

東京市外中野町打越一九六六

東京市深川區森下町四一

左 芝區白金台町八九

左 四谷區大善町五五

北海道函館市元町四

東京府下阿佐ヶ谷五五九

左 杉並町天沼四二五

樺太真岡病院官舎

府下尾戸町八一八私立聖病院(電話二五六四)

樺太大泊病院外科

福井縣遠敷郡遠敷村

千葉縣館山町館山病院

東京市麻布區富士見町二八渡辺雲四郎方

大分縣北海部郡小佐井村

富山縣高岡市旅籠町

長野縣小縣丸子町依田社病院

澤江六太郎

藤原 静夫

牛久 昇治

佐藤 太平

林 利治

大曾根 俊次郎

神山 敏雄

高橋哲太郎

中村 勝之助

近藤 宗彦

三橋 弘

濱野 碩太郎

豊田 秀穂

渡辺 治生

廣瀬 澄晴

吉崎 純

竹下 貫一

村所

岩手縣和賀郡黑沢尻和賀病院

北海道小樽病院外科

東京府八王子市八日町三一

北海道旭市宮下通九丁目左六号

福島縣石城郡大瀨村

東京府荏原郡目黒町上目黒七九七

府下上戸塚九六二吉岡方

外科医局

東京市外井款町下井草一九六八

東京市牛込區喜久井町二〇

外科医局

東京市外杉並町阿佐谷七四大

東京市芝區清土層病院往宅

足利市伊勢町

東京市赤坂區青山高樹町一四、五岡崎方

左 牛込區中町一二

高巢三四一

駒井忠雄

四條龍作

小内昇

木村守江

原廣治

佐藤盛二

生田幸喜

横山虎雄

川田正雄

吉野史郎

中村次郎

桑野鉄四郎

銚田榮

岩原寅徳

森文

東京市外中野町大字中野一〇九

東京市四谷區須賀町三四

左 淺草區七軒町四東京痔病院

左 麻布區霞町一七

左 新網町一、五五

山形市香澄町横町南四〇六

府下長崎町並木一五一

横須賀海軍機械病院

水戸市根積町五五一

東京市赤坂區青山南町一、一八

東京市外中野町二八六二

前橋市北曲輪町

東京府下大井町五〇〇

左 杉並町高円寺六六六

川崎市東三丁目五三佐藤方

府下中野町上町二八六二

横浜市神奈川區青木町三五七六

松井 八郎

河内野 弘徳

高橋福三郎

玉置陸次郎

古川 明

松橋 一

君塚 正

鍋島 勉

寺本太郎市

前田和三郎

村上 晋

関口林五郎

巨理 邦祐

井上 太郎

吉岡 勝衛

中村 廣人

八木 勝郎

東京市四石區東信濃町六廣川方
 鎌倉町大町一一二柴山方
 有下荏原郡荏原町中延一。八七加來方
 四石區大番町一。三古川方
 橫濱市鶴見區鶴見町豐岡六三三
 佐在保防備隊
 潛水母艇迅鯨
 東京市本郷區千駄木町五八莊司方
 左 四石區濱町三、二
 川越市小仙波



弓削 中
 土方 久顯
 百溪定七郎
 瀨尾 省三
 小口 宇一
 小野田 摩
 加藤銀次郎
 志田 元秀
 森下 貫一
 橋本 文吾



編輯後記

○ 皆様中世に之所活躍なさるる事何より喜ばしく存じます。

○ 吾が医局が創かたれり早や九週年となりました去年は十週年記念祝賀會と盛大に與つ記念論文集を作らる事になりまして之亦喜ばしく存じます。この事についで衣先生の一文が巻頭に載つておりますから是非一讀願ひます。

○ 刀林ははや第四号を發行せらる事にりました八月やと發行の運びになりまして出しかう不鮮明やすうつぶし等事故繰出で大変進みなりその為御会上秋の發行と一編にたりませぬ皆御に申訳ありませんが悪しからず御諒承願ひます。

○ 先輩諸先生より多数仰答の稿下さりましたことを厚く御礼申上げます。短信には今後御家庭の内状況や國樂の様子も知して頂いたら一層融和親密が増すぞと思ひますのでハカキ半角位いで北極く簡單に申訳候して頂きたいものと存じます。

○ 以上よりは至極く貧弱で不整頓で努力力した程に現はれぬ事残念に思ひます。追々

と充實したものと看すべしと信じます今後と北比呂松の伊助力によりまして此の刀林の生ひ立ちの健
やかならん事を中核ひりたします。

編輯に當り伊助力下さった匠扇の諸先生に感謝の意を表します。

一九二九—二一 (編輯小僧記)

昭和四年十二月一日印刷

刀林第四号

昭和四年十二月五日發行

非賣品

不許 發行者

慶應義塾大學外科学
教室同窓會

複製 編輯者

玉置陸次郎

東京市四谷區西信濃町北二番地
慶應義塾大學病院内

發行所

外科学教室

電話 五〇〇〇(四)番
四谷 二三〇〇(三)番



あつた
あつた
あつた

いづれ
あつた
あつた
あつた

あつた
あつた